勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元株式会社ダブルスコア／総代理店大松貿易株式会社
大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

＜巻頭言＞

財団法人化を試練のスタートに

（財）日本ハンドボール協会専務理事・荒川清美

待望の財団法人許可がおりて、はや2カ月余が経った。

この間、ハンドボール界関係者はもとより、多くのかたがたから祝辞を賜わり、改めて、その責任の重さを痛感している。

日本ハンドボール協会が、財団法人として、これまで以上に、社会的な責任を負うこととなったのは、当協会の活動が、単にハンドボール競技の発展、向上のみにとどまらず、広く国民スポーツの振興に寄与する期待がこめられていることでも、明らかである。

日本ハンドボール協会が、これほどの信頼を得るまでに成長を遂げたことを、素直に喜び、球界の諸先輩のこれまでの心労に、深く感謝の意を表したい。

さて、新生・日本ハンドボール協会は、当然のことながら、ハンドボールを、国民に親しまれる、国民の健康に役立つスポーツとして発展させる事業の推進を、大きな目標に掲げたい。

すでに、4月の全国理事会でも表明したとおり、この目的のために、プロジェクトチームを編成、遅くても今秋までには、進むべき道を、明らかにする意向である。

また、競技力の枝葉ともなるべき"球界内底辺"の拡充にも、これまで以上の力を注ぎたい。

多くの情熱家たちの努力によって、今夏から「全国クラブ選手権」が、日本協会事業として発足されるに至ったのは、誠に心強いスタートであり、ともすれば、教育現場にのみ種が蒔かれ、芽がふいていたハンドボールを、多くの人が知り、親しむことのできるスポーツへと育てあげる絶好の事業と考える。

競技者人口、愛好者人口の充実とともに、日本ハンドボール界が抱える宿命的な課題は「財源の確保」である。

旧・日本協会時代の43年間苦しみつづけた財政問題は、財団法人化を果したからといって、好転を示す材料は一つもない。

一人々々の競技者、チームの理解にすがっていた状態は、今後もつづくと思われるが、日本協会としても、独自の財源開発に、力をつくすつもりである。

その具体的な方法は、斎藤英四郎会長自から先頭に立ってくださるという「財源問題プロジェクトチーム」の検討に待ちたいが、少なくとも私は、競技団体のもっとも好ましい収入は、競技会からの収益である、と考えている。

一昨年の女子・東ドイツ、男子・西ドイツ両世界チャンピオンの来日、さらに、終了したばかりの「ジャパン・カップ'81」などの成果は、そうした意味で、自信を与えるものと思っているが、今後はいっそう実りのある事業を活発に開き、懸案の解消に心がけたい。

国際競技会は、頂点強化、財政面さらにはハンドボールそのもののPRにつながり、そのメリットははかり知れないが、ご承知のように本場ヨーロッパとの遠隔が、しばしば好企画の前へ立ちはだかる難関になる。

この問題を解決させるには、ナショナルチームの強化が最善策であることは、論を待たない。

本場の強豪に「日本と手合せしてみたい」と思わせてこそ、内容豊かな競技会が開けるのだ。

頂点の強化―日本のハンドボール技術、戦術の発展は、日本協会の大きな義務であり、7年後に、再び日本でのオリンピック開催有望と聞けば、いっそうこの問題は深刻である。

ヨーロッパとの交流の一方で、近年におけるアジア・ハンドボール界の急速な成長は、驚くべきものがあり、目をそらすわけにはいかなくなってきている。

しかも、それは量的な面ばかりではなく、質的にも、日本の楽観を許さぬほどの成長を示している

アジア諸国の据えるターゲットは、男女を問わず、すべて日本である。

そうして、すでにご承知のとおり日本の女子は、追われる立ち場から追う立ち場へとかわり、男子も、けして安閑としていられる現情ではない。

特に、来年秋、インドにおけるアジア競技大会での初実施の報が各国の情熱を、いやが上にも燃えあがらせている。

この機に、日本が「先進国」としての力を見せるためには、これまで以上の努力と精進が不可欠だ

どのようなことがあっても、アジアの王座は、死守しなければならない。

極言すれば、それが成って、はじめて財団法人としての展望も開ける、といえる。

財団法人化は、日本ハンドボール史の上では、忘れることのできない＜祝典＞にはちがいないが、現実には、過去に直面したことのない厳しい試練への船出である。

私も含めて新任の全理事諸氏がこの認識に立って行動しないかぎり、日本協会は、前進を遂げ得ないであろう。

巷間に、発想の転換を迫る声があるのも、わきまえているつもりだ。

少なくとも、旧態依然の感覚と行動で、財団法人を運営していては、取り残されるばかりであり、ナショナルチームも「アジア・ナンバーワン」の看板を、すべておろさなければならなくなる。

ましてや、国民スポーツへの成長など、永遠の絵そらごとに終ろう。

財団法人化は、オリンピック定着などで、いささか気の緩みをのぞかせた日本ハンドボール界に対して、改めての団結と奮起を望む"天の恵み"かもしれない。

理事を名乗る人々の死にものぐるいの活動と、全国競技者、愛好者一人々々の旧に倍する支援を、切望するものである。

（6月8日・財団法人記念パーティの夜記す）

財団法人設立記念パーティ開かれる

　既報のとおり、本年3月日本ハンドボール協会を財団法人にすることにつき文部大臣の許可が下りましたが、その財団法人設立を記念する祝賀会が、去る6月4日（木）午後6時から東京・新宿のホテルサンルート東京で盛大に開かれました。

　当日祝賀会開会前に開かれた新財団の第1回の評議員会ならびに理事会に出席した評議員ならびに理事多数、顧問、参与のほかに、日本体育協会、各競技団体、基金の募金に協力していただいた日本リーグ加盟各社、運動用品業者各社など、多数の来賓のご臨席をいただいて、新財団法人の発足を祝いました。

　このたびのハンドボール・ジャパンカップ'81に来日した東ドイツとの接衝についてのエピソードなどを盛り込んだ、国際人らしい斉藤英四郎会長のソフトながらも新財団にかける固い決意をのべる挨拶のあと、旧日本ハンドボール協会設立の頃の苦労話を浅野均一顧問が、草創の頃をなつかしむように語ってくれました。

　そのあと、和とリズムの大切さを強調した、前会長の田村正衛顧問の音頭で乾杯をしました。

　乾杯のあとも歓談は延々と続きましたが、新財団の運営に対する責任の重大さを関係者一同にあらためて感じさせる集いでありました。

第1回評議員報告

56・6・4

　新財団法人の第1回評議員会は去る6月4日午後4時から、設立記念パーティの会場であるサンルート東京で開かれました。

　今回の主要な議題は、既に財団法人設立発起人で決定し設立許可申請に添付した昭和56年度事業計画および収支予算（当初予算）の承認と旧協会の昭和55年度決算の承認です。

　収入予算八三、二三二、〇八八円中四三、九一三、〇八八円は旧日本ハンドボール協会からの継承金（内設立許可申請時基本財産に繰入済一〇、七二一千円）です。

　そのほかの収入は、基本財産の利子収入を除き旧協会とほぼ同じで、加盟金（二、八五〇千円）、登録料（九百万円）、検定・審査料（五、四〇〇千円）、開催権料（一、七一〇千円）、機関誌購読料（一一百万円）のほか、日体協の補助金、委託金はまだ内示がなかったので、取敢えず計九、一七〇千円が計上されています。

　支出予算もほぼ旧協会の当初予算どおりで、強化合宿、ジュニア研修合宿以外の日体協競技力委託事業は内示あり次第、予備費から補正予算を計上する予定です。

　また、基本財産にはさらに一、七〇〇万円繰入れて五、〇〇〇万円にしました。

　旧協会の昭和55年度の決算は、旧協会が発展的に解消したため、事実上新財団の評議員会に諮ったものです。

（大野金一）

＜人物紹介＞

事務局長　伊藤宏幸さん

　日本協会に電話をかけると若々しい男性の声。そう、皆さんすでにお気づきのことでしょうその人こそ、新生財団法人の要日本ハンドボール協会の事務局長伊藤宏幸さんです。昭和26年生れ。独身。

　伊藤さんは、昭和49年日本体育大学を出ると、すぐ発足して間もない日立栃木女子ハンドボールチームの監督に就任。快進撃する、あの"燃えるオレンジ"の日立栃木を作り上げた。日本リーグでは最高4位に終わったが、去年の栃木国体では遂に優勝をかちとった。その間わが女子ジュニア・ナショナルチームの監督として海外遠征もしている。

　従来日本ハンドボール協会の事務局長は、財政的な事情で、小学校の校長などを定年退職した人でハンドボールには全く関係ない人にいわば奉仕的に働いてもらっていた。病気のため、8カ月で辞めた加納前事務局長然り。10年勤めて辞めた提前々事務局長然り。

　しかし、これでは日本協会、ひいてはわが国ハンドボール界の発展は不可能と、財団法人設立を機に各方面に当たって中堅になれる人材を求めていたところ、日立栃木のご協力により、伊藤さんの出向という形でやっと実現した。

　伊藤さんは日立栃木の現職の監督ではあったが、1年間に限り、マネジメントの勉強もさせたいという会社の親心もあって敢えて伊藤さんに出向していただいた次第である。

『ハンドボール』

56年7月号（第198号）目次

ジャパンカップ'81を終えて

北川勇喜

日本全国のハンドボール・ファン待望のスーパー・イベント「ジャパンカップ・'81」が、去る5月24日から30日まで、大阪会場を皮切りに、名古屋、東京を転戦して行われた。

○5月24日
東ドイツ 35（18−7、17−10）17 全日本B
全日本A 25（12−9、13−8）17 中国
○5月27日
東ドイツ 38（19−11、19−8）19 中国
全日本B 18（9−9、9−7）16 全日本A
○5月30日
東ドイツ 28（13−9、15−11）20 全日本A
全日本B 26（11−12、15−8）20 中国

結局、順位は昨年のモスクワ・オリンピックのゴールドメダルチームの東ドイツが、どんな対戦チームに対しても、自分達のハンドボールをやって勝利を得るという・名将ティーデマン監督の自信通り、貫録を見せて優勝。穂積キャプテンを、リード・オフ・マンとして、若い長野、松井選手を思う存分に、力を発揮させる作戦と、第2戦の日本Aに的をしぼり、これに勝って中国をも、という市原監督の戦略・戦法が功を奏して、日本Bが堂々の2位。期待の全日本Aは、最終戦の東ドイツに前半健闘したものの、この大会を通して、日本が世界に誇るエース蒲生選手の不調が響いて3位。アジア最強のライバル中国は、何明情監督が、インタビューで今回は東ドイツ、日本チームから、戦術・技術等を学ぶために編成された若いチームであり、その点、東ドイツと戦えただけで良かったという。言葉通りの結果で最下位に終った

オリンピック・ジーガー（優勝者）が残した、見事なタクティク（戦術）プレー。

静かなる名将・ティーデマン監督は、滞在中の練習で「TAKTIK」という言葉を良く口にしていたが、この言葉は、球技の領域では「戦術」と訳され、日本のハンドボール界でも、最近、監督やコーチが良く使っている。

この言葉の定義はいろいろあるが、サッカーのクラマー氏は、「戦術は、ゲームにおける技術的な手段の応用に関する理論である」とし、ワェットリン氏は「戦術はプレーヤーが勝利をうるための目的にかなった行動である」としている。

又、日体大の球技研究会では、「戦術とは、競争の指揮に関する理論である」とし、球技の攻撃、防衛において相互に相手を打破し勝利を獲得するために必要な理論としてとらえ、戦術は、球技の高度化や、球技の指導において、中核となるものであるとしている。

全日本			チーム	東ドイツ		
成功率	成功数	シュート数	シュートパターン	シュート数	成功数	成功率
0.666	4	6	速攻	6	5	0.833
0.500	2	4	ポストドグ	10	6	0.600
0.333	1	3	サイドグル	1	1	1.000
0.500	5	10	ロンドル	6	3	0.500
0.500	8	16	ミドル	11	7	0.636
0.000	0	0	ペナルティー	9	6	0.666
0.526	20	39	合計	43	28	0.651

村松誠氏（駒沢大学）発表

教職員大会研修会発表ダータ。ジャパンカップ81最終戦より。

◇　◇　◇

さて、本題に入るが、今回の東ドイツの攻防法は、この戦術にもとずく戦術的プレーが、ゲームの攻防の中で徹底して行なわれた点について、わが国の指導者、およびプレーヤーは大いに学ばなければならないと考える。

具体的には、過日教職員大会の研修会において、次の様な戦術に関する興味ある発表があったので、それを参考にして、いかに、東独が戦術や戦術的プレーに優れているかについて述べてみる。

東ドイツは、ドライブロート、ヴァールという、世界的な大砲を有しているにもかかわらず、得点効率が低いロングミドルゾーンからのシュート数が計17本。これに対し、日本チームは計26本。サイドゾーンからのシュート、東ドイツ1本に対し、日本は3本と、いずれも、負けた日本チームが、不利なゾーンからの得点を試みている。

これに対し、得点および、ペナルティーにつながる得点効率の高いゾーンからの攻撃数は、東ドイツ、ポスト10回、ポストプレーヤーを防ぐ反則によるペナルティー9本に対し、日本は、ポスト4回、ペナルティー0本と大きな差がある。

更に、個々の戦術的プレーにしても、我々に、強烈な印象を与えた、得点王の左腕の大砲ドライブロートが25得点もしているが、その内容はペナルティー得点が14点であり、右腕の巨砲ヴァールが、ペナルティーゴールなしの16点であるのに対し、ポストプレーヤーのヴィーゲルトが、フィールドゲットだけで、20得点もしているのが注目される。（注：日本A、日本Bのポストプレーヤーは、得点10傑に1人も入っていない）

このように、東ドイツのチームは、ゴールからゴールへの往復能力を競う中で、①攻撃と防御が相対する状態より、攻撃が防御を弱点のある状態にする（2対2より2対1、3対3より3対2をつくる）。②その有利な状態をゴール近くまで維持する。③より有利な状態で得点を試みる。という戦術がチームの中に深く滲透している。したがって、個々のプレーヤーは監督の作戦指揮のもとにこれを忠実に守り、確実にプレーして得点をし、又、得点を阻止している戦術プレーは、彼等が残した大きな財産として、日本ハンドボール界は、これを継承し、発展させていかなければならないと考える。

ジャパンカップ戦績

第1戦・東ドイツ×全日本Bの試合は、5月24日午後3時34分から大阪市中央体育館で行われた。審判＝幸田末之、新井節男、公式計時員＝島崎政治、観衆＝二千七百

東ドイツ 35（18―7 17―10）17 全日本B

得	【東ドイツ】		【日B】	得
0	W・シュミット	GK	井藤	0
0	ローデ	GK	原田	0
6	ドライブロート	FP	松本	1
5	ヴァール	FP	穂積	3
4	ロスト	FP	中本	2
3	ペスター	FP	松井	1
1	D・シュミット	FP	長野	8
2	デーリング	FP	山口	0
1	ヘフト	FP	佐々木	0
6	ローテ	FP	仲田	0
6	ヴィーゲルト	FP	生駒	2
1	クルーガー	FP	内田	0
35	（3）	PT	（5）	17

第2戦・全日本A×中国の試合は、24日午後4時55分から大阪市中央体育館で行われた。審判＝新村理文、井上真也、公式計時員＝北岡大覚。

全日本A 25（12―9 13―8）17 中国

得	【日A】		【中国】	得
0	福井	GK	邵志雄	0
0	大畑	GK	関躍	0
4	津川	FP	安福田	0
4	大原	FP	白義順	1
8	山本	FP	張生	6
3	蒲生	FP	李国干	0
0	池ノ上	FP	孫平生	0
0	関	FP	呉明群	5
1	斉藤幸	FP	孟優勝	1
3	斉藤将	FP	徐旭波	1
2	猪野	FP	李英干	1
0	志賀	FP	張保平	2
25	（3）	PT	（2）	17

第3戦・全日本A×全日本Bの試合は、28日午後5時40分から愛知県体育館で行われた。審判＝井上真也、新村理文、公式計時員＝森敏郎、観衆＝三千

全日本B 18（9―9 9―7）16 全日本A

得	【日B】		【日A】	得
0	井藤	GK	岡部	0
0	上村	GK	福井	0
6	長野	FP	津川	3
1	穂積	FP	蒲生	2
8	松井	FP	大原	3
0	中本	FP	山本	3
2	松本	FP	池ノ上	3
1	生駒	FP	斉藤将	1
0	仲田	FP	関	0
0	佐々木	FP	斉藤幸	1
0	三本松	FP	田口	0
0	内田	FP	志賀	0
18	（2）	PT	（1）	16

第4戦・中国×東ドイツの試合は、28日午後7時から愛知県体育館で行われた。審判＝光島磯雄、狩野幸介、公式計時員＝森敏郎。

東ドイツ 38（19―11 19―8）19 中国

得	【東ドイツ】		【中国】	得
0	W・シュミット	GK	邵志雄	0
0	ローデ	GK	関躍	0
9	デライブロート	FP	白義順	1
2	ロスト	FP	張保平	2
4	ヴァール	FP	張生	1
3	ローテ	FP	李英干	1
2	ヘフト	FP	孟優勝	3
3	デーリング	FP	張鳴	2
2	D・シュミット	FP	呉明群	2
3	ペスター	FP	李国干	1
2	クルーガー	FP	孫平生	0
8	ヴィーゲルト	FP	安福田	6
38	（5）	PT	（3）	19

第6戦（大会最終戦）・全日本B×中国の試合は、30日午後3時40分から東京体育館で行われた。審判＝佐分正典、大塚文雄、公式計時員＝佐藤和孝


全日本のキャプテンとして活躍を見せた穂積

全日本B 26（11―12 15―8）20 中国

得	【日B】		【中国】	得
0	井藤	GK	邵志雄	0
0	原田	GK	関躍	0
0	松本	FP	安福田	4
6	長野	FP	孫平生	0
5	松井	FP	呉明群	4
4	山口	FP	劉豊	3
0	佐々木	FP	張鳴	3
3	穂積	FP	孟優勝	3
1	中本	FP	徐旭波	0
1	三本松	FP	李英干	1
5	生駒	FP	張生	1
1	仲田	FP	張保平	1
26	（4）	PT	（1）	20

▽全日本A×東ドイツ戦

第5戦・全日本A×東ドイツの試合は、30日午後2時15分から東京体育館で行われた。審判＝斉藤実、千野恒夫、公式計時員＝佐藤和孝、観衆＝約三千

東ドイツ 28（13―9 15―11）20 全日本A

得	【東ドイツ】		【日A】	得
0	W・シュミット	GK	福井	0
0	ローデ	GK	大畑	0
10	ドライブロート	FP	津川	3
1	ロスト	FP	関	0
7	ヴァール	FP	蒲生	1
2	ペスター	FP	山本	5
1	D・シュミット	FP	大原	2
1	クルーガー	FP	池ノ上	6
6	ヴィーゲルト	FP	斉藤将	0
0	ヘフト	FP	斉藤幸	3
0	デーリング	FP	志賀	0
0	ローテ	FP	猪野	0
28	（8）	PT	（0）	20

○…日本が先行すれば、というのがコートサイドやスタンドの期待だったが、東ドイツの猛攻は8分4―0、あっさりファンの夢を打ち砕いた。

1分ドライブロートのPTで先行した東ドイツは、そのあと、日本のお株を奪う鮮やかな速攻（ヴィーゲルト）さらに、エースのヴァールが、すばらしいジャンピングショット。

日本守備陣は、詰めもよかったし、動きも悪くはなかったのだがやはり〝金メダルのパワー〟は破壊力抜群であった。

○…日本は9分池ノ上の弾丸シュートで初の1点をあげてから、固さがほぐれ、互角の攻め合いを見せるようになるが、守りにまわった際、大型選手の突進を食い止めることができず、腕を巻きこんではPT、それをドライブロートの容しゃないシュートで決められて15分10―5。

しかし、日本も、この一戦にかけただけあり、16分蒲生が、相手のきついマークを振りほどいて初ゴールしたのをきっかけとして、17分速攻から斉藤幸、18分池ノ上と鮮やかにゴール、一気に点差を縮めた。

東ドイツは20分ドライブロートの突進で11―8としたが、ペースをつかんだ日本は、試合後、ティーデマン監督が絶讃した大原のランニング・ショットで追いすがりさらに、22分蒲生のシュートがはね返るところを、大原がすばやく拾って打ちこみ10―11、スタンドを沸かせた。

○…結果的にいえば、日本の善戦は、ここまでであった。

さすがに、東ドイツは、日本に同点とさせるような甘い展開はみせなかったのである。

D・シュミットの好リードで、ディフェンスをピシッと締めたあと、彼自から23分にゴールを決めてチームを落ちつかせ、日本が息切れしたとみるやヴァールに球を集めて長距離弾を、日本ゴールへ叩きこませた。

心にくいまでの試合運び、この余裕が、日本と金メダル国との差ともいえるが、日本は、中盤に、これだけの善戦が出来るなら、立ちあがり、もう少し、まとまって欲しかった。

そうなれば、少なくとも、勝負

の興味を後半に持ちこめただろうし、7年前の京都の時のように、東ドイツを大あわてさせることもできただろう。

日本Aは、名古屋で日本Bに手痛い一敗を喫したあとだけに、なんとなくプレーの歯切れが悪く、それが、早々と東ドイツに主導権を握られることにもつながった。

（杉山　茂）

ジャパンカップに学んだ点

——竹野強化委員長に聞く——

＜対談＞ 竹野奉昭　北川勇喜

東ドイツ、中国の2チームを招待、全日本A、Bの4チームで各地で熱戦を展開したジャパンカップ'81。

モスクワ・オリンピック優勝チームの東ドイツは、さすがにその実力を遺憾なく発揮してくれた。編集委員会では、強化委員長の竹野奉昭氏に、ジャパンカップに学んだ点を中心に話しを聞きここにまとめさせて戴いた。聞き手には常務理事で機関誌編集担当の北川勇喜氏があたった。

北川　東ドイツと中国の2チームを招待してのジャパンカップ'81を終えて、どうですか今の感想は？

竹野　当初アメリカチームも来るというので全日本1チームと考えていたのが、急にA、B2チームということになり、誰にBの監督をやってもらうか頭を痛めました。結局、ミュンヘンの時の選手たちが今後強化の中心になってやっていかなければいけないと考えていたので、その中で一番トップに居る市原君に監督を引き受けてもらい、ナショナルにはちょっと足らないというような即戦力の選手たちを集めてBチームを編成しました結果として、このA、Bチームを作ったことは、日本ハンドボール界にとって大変プラスになりましたね。

私は、個人的にはAに気のゆるみがあれば、Bに負けることもあると考えていたんですが。

北川　結果として、アメリカを呼んだのに来なかったので、日本の若手選手たちにはいいチャンスを与えたことになり、大きかったね。

竹野　そうですね。いい刺激になりました。それにBが中国に勝ったということは、次の世界選手権やオリンピックの予選では中国と戦うことになるので、中国には負けないという精神面で選手たちにはプラスになりますね。そうした点で、市原君が短期間であれだけのチームを作ったのは偉いと思いますね。

北川　そうね。コーチの方もBは個性ある2人が大変巧くいったということだね。

竹野　穂積が大変力を発揮していたように、選手たちが、このままではナショナルに入れないという一つの危機意識を持って精一杯やっていた。こうした精神状態でいつもプレイ出来ないものか、いつも選手たちには言ってるんですがね。

北川　そう、穂積がBのキャプテンとして大変良くやっていたねあんな一面があったのかな、と思う程良さを発揮してたね。

竹野　中本、井藤あたりも大変その良さを出してましたけど、そういう選手たちが上にあがると何故その良さが出ないのか。そのあたりが、コーチングスタッフの今後の課題だろうと思います。

私は、モントリオール以来東君の協力を得て一貫して一つの型を作って来たんですけど、今後その型を少し崩しながら、しかしその基本的なことは合っていると思うので、今現在ある一種のマンネリを打ち破るため、もう一度原点に戻るよう走り込みからやっていこうと考えています。そういう点で、今回のジャパンカップで、誰かがやってくれるだろうというような選手たちの甘えがあったことを試合後お互いに反省していたようですし、いい勉強になったと思います。

北川　ところで、東ドイツチームの印象はどうでした？

竹野　やはり世界のトップのチームだという感じです。東ドイツに遠征して対戦した時は、疲れもあったりして体力的な差だと思いもう1回やってみたいと考えていたんですけど、今回こうしてやってみて、やはりパワー的な違いだと感じました。1歩2歩の動きが大きくて、日本選手とは全然違う。そうした点で防御陣がついていけなかったりしましたね。これからは、もう少し前につめて、動かさないようにしなければダメですね。

一方、ディフェンスの方では各選手が各々の役割を良く知っているという感じでしたね。それで誰でもがわりとどこでも守っている感じでしたし、それが東ドイツのディフェンスの強さのような気がしましたね。

北川　そうね。一対一のディフェンスの力が弱いというのが課題かもしれないね。どうしても相手の一歩一歩の動きが大きいので、それについていけないというような点ね。

竹野　そうですね、日本の選手だと一番大きいのが蒲生ですからね。蒲生以下の選手とやってもしょうがないので、そうした点を改めるには、やはり外国で合宿するのが一番だと思います。ようするに慣れですからね。

北川　攻撃面で印象に残っていることは。

竹野　そうですね、2番のドライブロートですね。この選手の一歩が大きいためにディフェンスが引きずられてヴァールが生きるし、高いがためにポストに落とされるしね。

北川　遠征した時もナショナルと対戦したの。

竹野　やりました。しかし、その時は時差ボケや疲れがあったからと考えてたんですけど、今回は迎え撃ったんですから……やはり強いですね。

45度とポストの動きが、日本の選手の場合止まったままでもらっているけど、彼らはボールを投げられたら、そこに触わり込んでいるような動きがありますね。

北川　彼らは実にコンビがいいね サイドプレーについてはどうですか。

竹野　サイドからの攻撃はあまり見てませんね。ディフェンスが

いいから速攻め展開が早いですね。しかも、ダイレクトに出して来ますね。

北川　ゴールキーパーは？

竹野　キーパーはそんなに巧かったという感じはしなかったですけど、何となくやられたという気がしますね。日本はどちらかというとイレギュラー的なキーパーにやられるケースが多いですね。正攻法的なキーパーには割と強いんですけどね。

北川　蒲生が下降線かなと思って見てたんだけどケガがあったんだって……

竹野　ええ、モスクワ・オリンピックの予選が名古屋であって、その時にケガして以来ちょっとケガが多くなりましたね。右膝をやられているんで、左に動くのが痛いらしくて右にしか動かないのでちょっと無理があったんですね。まあ故障は完全には直らないと言われているようだけど、この間の日本リーグの動きなんかを見ていると、まだまだあれだけ動けるんなら、と思っています。

北川　それで少し安心した。やはり彼はエースだし、次のロサンゼルス・オリンピックとそれに名古屋でその次のオリンピックがありそうなので、それまで彼には頑張って欲しいからね。そして、その間に後2人ぐらい大きな選手を育てて、その他の選手たちにも色々な面で成長してもらえば、何とかメダルだって狙えるんじゃないかと思うんだけど。

竹野　そうですね、可能性はあると思いますね。ジャパンカップなんかでも出たんですけど、上の連中はわりと国際経験があって、それがかえって少しマンネリ化している所があるし、逆に下の連中はほとんどないということでがむしゃらにやっているところがある。今後は、少し下の連中も上にあげてやってみる必要がありますね。

北川　大原、山本といった選手たちは自信満々のプレーを見せたし、長野も自信をつけたようだし、松井とかね……。

竹野　小さい連中は攻撃力は持っているんで、そこそこ点は取れると思うんですが、しかしディフェンスということとなると、もう失点は覚悟しなくちゃいけないですからね。そういう点で70ちょっとの連中を4人も出すようになると、それは負け試合ということになるんですね。今回もそれで組合せを変えてスタートしてみたら、前半やはり攻撃がちょっとチグハグだったですね。

北川　ところで中国チームの印象は……

竹野　中国とは、クウェートでオリンピックの予選の時に戦ってますが、あの時の選手たちの方が個性があって恐しかったですね。まあ中国チームに一番言えることは、パワー不足ですね。それにハンドボールをよく知っていないということで、日本のA、Bに負けるという差になっているんじゃないですか。

攻撃にしても何にしてもちょっとプレイが淡白ですね。昔の選手たちはもっとしつこかったですね。ただ背は高いですからもっと体力トレーニングをやって力をつけて来たら日本には脅威ですね。

北川　背が大きかったものね。東ドイツの監督が、大きいとうらやましがった程だからね。

竹野　背は高くて足は長いんですが、東ドイツの選手たちみたいにがっちりしていないでスラリとしていますからね。そういう点で力がないですね。

北川　選手たちもハンドボールの経験が少ないらしくて、だいたい3年ぐらいということでしたね。しかし、これからはハンドボールも中国国内でどんどん盛んになってくるようだし、恐いですね。

竹野　そうですね。あれだけ沢山の人口の国から本当にいい選手を選んでやって来たら強くなってくるでしょうね。

北川　そうね。これから日本と中国といったアジアのチームが互いに鎬を削って強くなっていくことはいいことだよ。

竹野　それに韓国もどんどん若手に切り替えて一生懸命やってきてますから、これから強くなってくるでしょうね。

北川　それで、今後は？

竹野　世界選手権の予選に必ず勝つという目標がありますからね予選1位で行かないと組合せが随分違いますので、何とか1位で行きたいと考えてます。それで、世界選手権の前1カ月ぐらいルーマニアで合宿して外人に慣れてから臨もうと考えてます

それから、この前12月にフランス協会40周年記念という大会があるので、全日本の直前なんですが何とか参加しようということで、ベストメンバーではなくてもジュニアあたりからも混ぜて全日本を編成して遠征しようと考えています。

北川　まあ、今年は色々な大会や遠征もあるようですし、是非頂点を目ざして頑張って下さい。

竹野　有難とうございます。今年は試練の年だと思いますが、一歩一歩を大事に頑張っていきたいと思います。

北川　今日はどうも有難とうございました。

IHF審判講習会報告(1)

光島磯雄
岡前義春

国際連盟の規則改正に伴うレフェリーシンポジウムが、5月9日より5月13日まで、オーストリアのウィーン市郊外約50㎞にある、リンダーブルンのオーストリア・フットボール連盟のスポーツ学校に於いて開催された。

参加40カ国、88名のIHF講師各国チーフレフェリーが参加して実施されたそのプログラムは、次の通りである。

〔日程〕

<第1日>

5月9日　到着、受付、宿舎割

<第2日>

10日　8:00　朝食

9:00　開講式あいさつ、

9:30　新ルール改正に伴う意義について、

9:45　ルール第8条と第17条のグループディスカッション

12:30　昼食

14:20　グループ評価、IHF解説

15:40　ルール第1条～第10条についてグループディスカッション。E・エリアス氏の解説

<第3日>

11日　8:00　朝食

9:00　ルール第11条～第19条についてグループディスカッション、および解説

12:30　昼食

午後　フリータイム。観光バスにて市内見学およびショッピング

19:00　協会長レセプション　ワイン工場に於いて、

<第4日>

12日　8:00　朝食

9:00　IHF講師の紹介。パネルAおよびBの診断と観察について。ゼスチャー体力テスト問題オフィシャルの講義。

12:30　昼食

14:00　新ルールに関するビデオの例示による適用条文のテスト。グループディスカッション、

19:00　夕食。夕食後モスクワ・オリンピック男子決勝のビデオテープ映写。

<第5日>

13日　8:00　朝食

9:00　ビデオの例示によるテストの解説と討論。

10:00　将来におけるゲームの展開について。

11:00　ホイッスルの吹き方について

11:30　閉講式あいさつ

12:30　昼食

15:00　解散。バスでウィーン市まで輸送解散

〔総括〕

今回の講習会は、IHFが現在までの競技規則を部分的に改正して、解釈の統一を計る努力を続けてきたが、技術の高度化と、反則もエスカレートして、ハンドボール競技に対する観衆の批判も大きく、ラフプレイに対して、ハンドボールから次第に離脱することを警戒して全面改正に踏み切ったものであると期待されたことである

IHFの組織も制度化され、各地区の担当責任者(講師)を決定して、将来のハンドボール競技の発展を考慮したものと考えられる。

アジア(極東)は、エリク・エリアス氏が担当するよう決定されている。

前回までと異って今回は改正原案を各国に送付され、各国も実施に向け研究検討された結果を、今講習会に持ち寄ったもので、講習会も円滑な運営で終了したと言える。

講習会の中で特に「相手に対する動作、粗暴行為」については厳しさをもって対処すること、又、反則が故意に犯された行為であるかどうかを見抜くことが、レフェリーに必要であると強調された。

警告の3回は、12名の登録されたプレイヤーに対して与えられるものである。競技開始前に警告が与えられた場合も、チームの警告数に入るものである。

ベンチのチーム役員に対する警告は1回与えられ、次は失格である。又一方レフェリーに対しては第17条の7のルールは完全なものではない、それを適用することは非常に困難を伴うし、むずかしい問題が多いが、レフェリーはVTRなどを大いに利用して研究することが必要であると説明している

我が国では、4月1日より新ルールを実施して競技を行っているが、解釈については、大きく異った点はなく、実施前に問題とされたことについて解釈の統一を計るべく後記のように各都道府県協会に連絡して徹底を計るようになっている。実施時期は8月1日である。具体的な例示については、次号に報告させてもらう。

最後になりましたが、講習会参加につきまして関係各位にご高配いただきましたことを、誌上をもってお礼申し上げます。

昭和56年度A級公認審判員審査を、6月12日駒沢体育館で実施した。

受験者は13名　合格者　9名
保留　1名　不合格　3名

不合格となった評について、①判定の基準が決っていない。②走力、位置どりが悪い。③相手とのコンビ、④判定に自信が見られないなどであった。今後の研究を期待します。

A級合格者
平井　功(山梨)
市瀬公敬(山梨)
中所和信(山口)
竹村久晴(愛媛)
伊藤演哉(愛媛)
小山哲央(愛知)
細井政雄(愛知)
岩永重之(愛知)
岩本晃寿(愛知)

昭和56年度ＩＨＦ公式解釈について

2—6　時計は、記録席においてタイムキーパーが操作できる公式時計または、ストップウォッチを使用する。

　最後の一投ができるのは反則のときのみである。(スローオン、スローイン、ゴールスローのときは最後をしない)。

4—3　不正交替の適用基準

4—6　ゴールキーパーのユニフォームの色は、すべてのプレーヤーと区別できるものでなければならない。

5—5　ボールコントロールとはプレーヤーがボールを片手または両手で保持しているとき、またはドリブルしている状態をいう。

15—13　レフェリースロー

。ボールに向ってジャンプする2名のプレーヤーは、自己のゴール側に位置し、レフェリーの近くに立って行う。

。レフェリーがボールを投げあげ落ちてくるところを両プレーヤーは、タップ(はたく)またはキャッチしてもよい。

＜プレーヤー負傷時の中断＞

負傷者が出たら、「タイムアウト」をとり、負傷したチームの役員のみをコート内に呼び入れる。

4—4

4—5

プレイヤー	プレイに影響ないとき	反則を犯したとき	暴力行為
不正交替	2分間退場	失格＋2分間	追放
退場中のプレイヤー	2分間＋残りタイム	失格＋2分間＋残りタイム	追放＋残りタイム
資格のないプレイヤー（メンバー以外）	失格＋2分間	失格＋2分間	追放

レフェリーゼスチュアー

① ゴールエリア侵入	② ダブルドリブル ジャックル	③ オーバーステップ オーバータイム	④ ストーリング	⑤ ハッキング
⑥ ホールディング	⑦ プッシング チャージング	⑧ 得点（CR GR）	⑨ スローイン	⑩ ゴールスロー
⑪ フリースロー	⑫ レフェリースロー	⑬ 3mの距離	⑭ 警告 イエローカード 失格 レッドカード	⑮ 退場
⑯ 追放	⑰ タイムアウト			

○ 第22回全日本男子実業団選手権大会

湧永薬品 3年ぶり3度目の優勝

第22回全日本男子実業団選手権は、5月2日から4日まで、愛知県体育館に10チームが参加して行われた。

各チームとも、新戦力を加えての初対決とあって期待をもたせたが、やはり湧永薬品と大同特殊鋼の〝二強〟が、全日本選手を軸に、安定した攻守を示し、決勝へ進出、スケールの大きい攻防戦を展開した末、湧永が終了間ぎわの先行ゴールを活かして3年ぶり3度目の優勝を飾った。

期待の本田技研鈴鹿は3位だった。

▽1回戦

中村荷役運輸（東京） 23（11 13／11 5）16 日鉄建材（大阪）

三景（東京） 24（11 13／13 10）23 トヨタ車体（愛知）

▽準々決勝

大同特殊鋼（愛知） 33（15 18／4 4）8 中村荷役運輸

本田技研鈴鹿（三重） 20（8 12／8 4）12 日新製鋼（広島）

大崎電気（埼玉） 24（14 10／10 13）23 三陽商会（東京）

湧永薬品（広島） 29（14 15／6 2）8 三景

▽敗者復活1回戦

三陽商会 29（17 12／5 4）9 日鉄建材

日新製鋼 22（11 11／3 4）7 トヨタ車体

▽同2回戦

三景 21（8 13／10 7）17 三陽商会

日新製鋼 27（2 3：2 2：8 10／0 0：2 2：11 7）22 中村荷役運輸

▽準決勝

大同特殊鋼 19（9 10／6 7）13 本田技研鈴鹿

【本田】	得	【大同】	得
GK 大畑	0	GK 柳川兄	0
細野	0	上村	0
FP 長野	2	FP 花輪	0
佐藤	0	蒲生	9
喜井	1	柳川弟	0
豊岡	0	大原	4
佐々木	3	中本	2
矢野	2	浦田	1
高橋	1	小野	1
坂本	1	田中	0
三本松	0	田口	2
粟屋	3	更谷	0

（審・岩本、岩永）

19（2） PT （2）13

湧永薬品 20（10 10／7 4）11 大崎電気

【大崎】	得	【湧永】	得
GK 岡部	0	GK 福井	0
原田	0	大城	0
FP 斉藤	2	FP 津川	1
東江	1	穂積	3
新田	0	松本	1
長野	6	山本	6
松岡	2	池ノ上	4
秋山	0	内田	1
越迫	0	生駒	4
宮崎	0	溝部	0
園田	0		
佐藤	0		

（審・浅田、川島）

20（2） PT （0）11

▽9位決定戦

トヨタ車体 20（11 9／9 10）19 日鉄建材

【日鉄】	得	【トヨ】	得
GK 坂口	0	GK 近藤	0
川上	0		
FP 霜村	0	FP 中島	8
山口	3	横尾	2
内藤	0	萩原	4
杉本	4	森岡	2
古川	1	宮松	2
池辺	3	山田	2
玉嶋	0	高橋	0
清原	4	石原	0
若本	4	牧	0
素原	0	大塚	0

（審・角、大矢）

20（3） PT （5）19

▽7位決定戦

三陽商会 24（13 11／6 5）11 中村荷役運輸

【中村】	得	【三陽】	得
GK 小松	0	GK 大山	0
飯塚	0	田村	0
FP 松本	1	FP 関	4
坂口	1	金子	4
西窪	1	坪子	0
加納	0	稲木	2
山崎	0	山口	11
辻	1	石原	1
三尾	4	鵜沢	1
村井	2	斉藤	1
飯田	1		

（審・岩永、岩本）

24（1） PT （1）11

▽5位決定戦

日新製鋼 19（10 9／5 10）15 三景

【三景】	得	【日新】	得
GK 伊藤	0	GK 三田	0
野田	0	西川	0
FP 山村	1	FP 泉	3
中馬	3	徳田	6
鈴木	8	大庭	0
島中	0	吉見	5
地主園	1	洞ケ瀬	0
工藤	0	脇若	4
奥村	0	日野	1
加藤	0	森	0
藤山	0	甲斐	0
犬飼	2	一の瀬	0

（審・竹内、有岡）

19（2） PT （5）15

▽3位決定戦

本田技研鈴鹿 26（14 12／10 7）17 大崎電気

【大崎】	得	【本田】	得
GK 岡部	0	GK 大畑	0
原田	0	細野	0
FP 斉藤	3	FP 長野	4
長野	6	佐々木	4
東江	2	喜井	8
新田	1	豊岡	0
秋山	0	三本松	1
松岡	4	粟屋	0
越迫	0	矢野	2
宮崎	0	高橋	4
園田	0	坂本	3
佐藤	1	佐藤	0

（審・川島、浅田）

26（3） PT （3）17

▽決勝

湧永薬品 17（7 10／5 11）16 大同特殊鋼

【大同】	得	【湧永】	得
GK 柳川兄	0	GK 福井	0
上村	0	大城	0
FP 花輪	1	FP 津川	3
柳川弟	0	穂積	1
大原	3	松本	6
中本	0	山本	0
浦田	3	池ノ上	5
蒲生	8	生駒	0
更谷	0	藤本	0
小野	1	戸田	2
田中	0	志賀	0
田口	0	内田	0

（審・岩本、岩永）

17（5） PT （3）16

○…後半10分池ノ上の連取で、ようやく先手をとった湧永は、残り4分16－15とリード、押し気味だったが、大同も粘り、28分10秒ポストから浦田が決めて、予断を許さなくした。

しかし、湧永は、29分32秒山本のジャンプシュートが、相手GKの手をはじきながらゴールとなる執念じみた得点で、優勝をもぎとった。

激しい点の取り合い、スコアの動きからみれば、強豪同士らしい白熱戦だが、シーズン初めということを割り引いても、私の目には点差ほどの緊迫感が、伝わって来なかった。

お互いに手の内を知りつくし、しかも主力選手は全日本の仲間、両者の対決は、このところ、力と力のぶつかり合いというより、その時のムードで流れが決まるような印象だ。

しかし、ユニホームが違えば、当然、斗志向き出しの勝負欲と、斗争心が欲しい。

また、両チームにいつまでも決勝戦を争わせておく他チームの戦術も、もうそろそろ新味が出てよいのではないか。（竹野奉昭）

★ベストセブン

・GK 福井　秀人（湧永）③
・FP 津川　昭（湧永）⑤
　山本　伸二（湧永）①
　池ノ上孝司（湧永）①
　蒲生　晴明（大同）⑤
　大原　真造（大同）①
　佐々木信男（本田）①
・新人賞 粟屋敏則（本田）
・○内数字は受賞回数

○ 第22回全日本女子実業団選手権大会

立石電機 5年ぶり2度目の優勝

第22回全日本女子実業団選手権は、5月22日から24日まで、大阪市中央体育館に11チームが参加して行われた。

前年度、四つの全国タイトルが四つのチームに分散、〝乱世〟を展開したあとだけに新シーズンの流れを占う興味深い大会だったが、四強による準決勝から、立石電機×ジャスコの決勝となり、立石が残り3分であげた1点を守って5年ぶり2度目の優勝を飾った。

なお、この大会は、史上初めて「30分ハーフ」が採用された。

▽1回戦

東京重機（東京） 15（4－5 11－6）11 大和銀行（大阪）

大崎電気（埼玉） 18（10－1 8－7）8 ブリヂストン・タイヤ彦根（滋賀）

北国銀行（石川） 13（3－5 10－3）8 ムネカタ（福島）

○…重機×大和は、大和が前半終了間ぎわ2－4から千原、若杉で一気に逆転したが、重機は後半すぐに反撃、鈴木、寺西の活躍でペースを取り戻し、攻撃が単調になった大和を突き放した。

初登場のブリヂストンは、前半〝実業団の当りの強さ〟がなく、大崎に押しまくられた。

後半になるとブリヂストンは、ようやく場なれして金綱を中心に頑張り、今後に期待を残した。

▽準々決勝

日本ビクター（茨城） 19（13－3 6－8）11 東京重機

○…5分5－1と好調に滑り出したビクターに比べ、重機は斉藤寺西のシュート力に頼るだけの攻め、相手の守りを崩せなかった。

後半、ビクターは5分までに2点をあげ15－4、圧勝かとみえたが、そのあと攻撃にまとまりをなくし、逆に重機はつなぎがよくなって得点をあげたが、いかにも前半の差が大きかった。（北岡）

立石電機（熊本） 18（9－9 9－7）16 ブラザー工業（愛知）

○…両チームともにスピード豊かなプレーを応しゅう、好試合となった。

試合の先手は立石がたえず取っていたが、ブラザーもよく粘り、後半開始直後には、逆にブラザーが3点連取、12－9と優位に立った。

しかし、このあたりから、ブラザーは守備に落ち着きがなくなり反則退場や連続4本のPTを課せられるなどした。

立石は、このうちPTで3点、そのほか木下、羽立、姫野らのゴールで15分16－12、終盤さらに桑原の2得点で安全圏にとびこみ、粘ろうとするブラザーを押し切った。（栗山）

日立栃木（栃木） 20（8－6 12－8）14 大崎電気

○…大崎は西の連続得点で先行したが、日立は中盤、大高の巧技で逆転、余裕を取り戻した。

後半、大崎はよく追うのだが、日立はがっちりと主導権を握って離さず、10分すぎ大高、水上らで一気に勝負に出て12分15－9、大勢を決めた。（梅田）

ジャスコ（三重） 21（13－5 8－7）12 北国銀行

○…ジャスコは2本のPTを活かして10分6－1とあっさりリード。

北国は立ち直りを焦って射ち急ぎが目立ち、相手GKにおさえられては逆襲をうける拙い試合運び前半で勝負の行方が解かってしまった。（島崎）

▽敗者復活1回戦

ムネカタ 14（6－7 8－6）13 東京重機

大和銀行 15（7－4 8－7）11 北国銀行

ブラザー工業 31（16－4 15－9）13 ブリヂストン・彦根

▽同2回戦

大崎電気 22（11－3 11－3）6 ムネカタ

ブラザー工業 27（16－4 11－12）16 大和銀行

○…5試合のなかではムネカタ×重機がもつれた。

ムネカタは後半5分間に3点をあげ9－7と逆転してから、にわかに動きがよくなり、そのあとのチャンスを確実に活かした。

一方の重機は、鈴木がすばらしい当りをみせ、リードされた後半もPTに恵まれるなどあって勝負を残り5分にかけたが、ムネカタの懸命な守りに、追いつくことができなかった。

大和×北国は、大和が前半15分すぎ3－3から馬渡らであげた3点差を巧く活かし、北国にせり勝った。

▽準決勝

立石電機 22（12－6 10－10）16 日本ビクター

○…立石は、ゴールポストに当ったボールがGKにはね返って得点となるラッキーなスタート。

一方のビクターは、再三のチャ

得	【立石】		【日ビ】	得
0	井村	GK	渡辺	0
0	荒木	GK	高橋	0
1	羽立	FP	染谷	1
4	藪田	FP	伊藤	1
1	紀野	FP	岩城	0
4	木下	FP	志村	8
6	桑野	FP	中根	0
1	姫野	FP	高光	6
0	福永	FP	伊藤栄	0
0	喜久山	FP	伊藤好	0
3	亀園	FP	門脇	0
2	江口	FP	池田	0
22	（3）	PT	（7）	16

（審・丸岡、北岡）

ンスに射つシュートがバーに当って18分間ノーゴールという不運。

この〝明暗〟が20分8－3というスコアに表われ、意外な展開となった。

大差をつけられたビクターは、後半、少しでもスコアを詰めようと射ってでたが、立石のディフェンスは固く、10分17－8とかえって点差があいた。

終盤、ビクターは高光のシュートが決まり出したが、すでに立石はメンバーを若手に切り替え、スタンドで光る中国ナショナルの目を意識してフォーメーションプレーも控え目、楽に試合を進めた。（福井）

ジャスコ 20（10－5 10－6）11 日立栃木

得	【ジャ】		【日立】	得
0	山本一	GK	寺沢	0
0	矢部	GK	斉藤	0
7	辻本	FP	水上	0
4	松下	FP	大高	4
4	山本二	FP	大輪	2
0	宮崎	FP	栗原	0
0	松岡	FP	小根沢	3
2	横山	FP	西山	2
0	今里	FP	手打	0
2	若田	FP	前田	0
1	寺沢	FP	土屋	0
0	若林	FP	山本	0
20	（7）	PT	（2）	11

（審・栗山、島崎）

○…5分2－1のあとジャスコ

は若田、山本らで多彩な攻めこみをみせ、あっという間に5点差をつけた。

日立も、チャンスはあったのだが、出足のよいジャスコの守りにあって踏みこみが足らず、12分間で9本のシュートを落した。

後半に入っても同じような展開で、日立は2回のPTを、ジャスコGK矢部に封じられるなどあり自滅ともいうべき試合ぶりだった。

ジャスコは、速攻のほか、ロング、ポスト、サイドなどセットからの攻撃も変化に富んでいた。

（小西春）

▽7位決定戦

ムネカタ　11（5—8／6—2）10　大和銀行

【大和】	得		【ムネ】	得
春口	0	GK	清水	0
松木	0	GK	岩瀬	0
宮本	3	FP	広田	3
若杉	3	FP	岡部	0
千原	2	FP	吉田	0
中川	1	FP	石田	5
馬渡	0	FP	大河原	1
門	0	FP	米野	0
高橋	0	FP	落合	1
山下	0	FP	佐藤	1
鈴木	0	FP	水野	0
秋成	1	FP	辺見	0

（審・福井、小西）

11（3）　PT　（2）10

○…7—10と引きはなされていたムネカタは、残り10分から猛反撃、広田、石田で10—10としたあと、タイムアップ寸前、広田が逆転ゴールを決めた。大和は悔いを残すスタミナ切れだ。

▽5位決定戦

ブラザー工業　20（12—9／8—8）17　大崎電気

【大崎】	得		【ブエ】	得
藤村	0	GK	屋比久	0
梅野	0	GK	中村	0
西	7	FP	竹内	3
陽田	1	FP	則武	2
宮嶋	0	FP	増永	2
石井	8	FP	太田	0
渡部	0	FP	植田	6
徳渕	1	FP	杏原	2
山沢	0	FP	山村	4
嘉本	0	FP	尾崎	1
		FP	松下	0
		FP	塩谷	0

（審・島崎、井上）

20（1）　PT　（2）17

○…大崎はかなりのチーム力を持っているのだが「勝負に弱い」面がある。この試合も、その欠点がのぞいて、ブラザーにかきまわされてしまった。

▽3位決定戦

日本ビクター　14（6—5／8—4）9　日立栃木

【日立】	得		【日ビ】	得
寺沢	0	GK	渡辺	0
斉藤	0	GK	高橋	0
手打	3	FP	染谷	1
栗原	0	FP	志村	5
犬輪	2	FP	伊藤	0
大高	4	FP	中根	1
水上	0	FP	岩城	4
小根沢	0	FP	高光	3
西山	0	FP	伊藤栄	0
小池	0	FP	伊藤好	0
前田	0	FP	門脇	0
山本	0	FP	池田	0

（審・梅田、栗山）

14（5）　PT　（2）9

○…前半なかばまでは日立のペース、そのあと、今度はビクターが元気づき、志村の連続PTなどで逆転した。

後半、ビクターは、岩城の巧い動きなどから連続4点を奪い5分10—5と優位に立った。

結果からいえば、この5分間の攻防が、勝負を色分けしたことになり、日立としては、前半15分以降約20分間のノーゴールが、大きな反省として残ることになった。

（福井）


立石電機×ジャスコの決勝戦。立石藪田が後半27分，貴重な点をあげる

▽決勝戦

立石電機　17（10—9／7—7）16　ジャスコ

【ジャ】	得		【立石】	得
矢部	0	GK	井村	0
山本一	0	GK	荒木	0
松下	4	FP	紀野	6
辻本	4	FP	木下	1
山本二	5	FP	姫野	1
宮崎	1	FP	桑原	4
横山	0	FP	藪田	1
松岡	0	FP	羽立	4
今里	0	FP	福永	0
若田	2	FP	喜久山	0
寺沢	0	FP	是枝	0
若林	0	FP	亀園	0

（審・丸岡、北岡）

17（3）　PT　（3）16

○…後半22分14—15とされたジャスコは辻本のゴールで同点、立石もすばやく攻撃に移って桑原がサイドから押しこみ16—15、逃げ切りの態勢かとみえたが、ジャスコは、24分42秒辻本が中央からロングを打ちこんで16—16だ。

残り5分（新ルール）のスリルは、さすがに"女王対決"らしい。

ジャスコは、一気の逆転を狙って宮崎、松下が好シュートを放ったが、立石GK矢部に阻まれ17点目がとれない。

逆に立石は、27分フリースローから藪田が巧みに相手守備陣をついて貴重な先行。

ボールがジャスコに代って、いっそうエキサイトした時間を迎えたが、もぐりこもうとするジャスコに対して、立石はよく守り切りタイムアップ、立石は5年ぶりの栄冠獲得を決めた。

○…試合は初めから、すばらしい攻め合いとなり、前半なかばまでは、わずかにジャスコが押していた。

立石は20分5—7のあとからリズムに乗りはじめ、紀野の巧技などで28分10—8と主導権を奪った。

ジャスコは前半終了間ぎわ、山本のゴールで1点差としたが、後半の立ち上り、再び立石の集中攻撃を浴びて6分9—12と苦しいスコアになった。

ここで勝負が決まってしまっては、まったく味気ない決勝戦になるところだったが、ジャスコは、若田の連続ゴールで反撃の態勢をとりなおし、9分辻本で12—12。

○…ここでPTの明暗が1回おきる。立石が10分のPTを紀野がじっくりと決め、13—12と一息ついたのに対し、ジャスコは15分のPTを、そらすのである。

えてしてこうしたことで、試合の流れは変わるものだが、ジャスコは、ベテラン・松下が鋭いジャンプシュートを連続させ、16分14—13と逆転に成功する。この局面で、今度は立石が18分のPTを落す。しかし、その失敗も、立石は20分のPTを、紀野自からが張消しにするゴールで補い、その直後とっておきのスカイプレーを羽立が成功させ15—14とした。

★ベストセブン

・GK　井村文光子（立石）①
・FP　木下　智子（立石）①
　　　紀野奈々美（立石）②
　　　松下　仁美（ジャ）⑦
　　　辻本　撫子（ジャ）①
　　　染谷　保子（日ビ）①
　　　竹内　保子（ブエ）③
・新人賞　秋成圭子（大和）
・○内数字は受賞回数

強化委員会

ロスアンゼルスに向けてGO……

日本協会強化部は、５月13日、東京渋谷の日本体協で、新スタッフによる初の強化委員会を開き、当面する頂点強化について、およそ４時間にわたる協議を行った。

その結果、全委員（竹野部長ら９名出席、欠席２名）とも、３年後のロサンゼルス・オリンピックへ向けて、基盤の確立した頂点強化を展開するため、思い切ったナショナルチーム造りを進めていくことで意見が一致。

特に、委員会の前日、世界ジュニア・アジア予選で、日本男子ジュニアが、台湾に敗れたことから緊迫感が高まり、特別出席した日本協会・荒川専務理事との間に、激しいやりとりがあるなどした。

その結果、

①全日本男子は、「ジャパン・カップ」（５月24～30日）を口火に頂点強化を新スタートさせる。

②全日本女子は、７月または９月に懸案のヨーロッパ遠征を行う

―の二点をまとめ、全日本女子は、来春に予定される第８回世界女子選手権アジア予選は、単独チーム・プラス有力選手で乗り切る場合もある、という注目すべき路線を打ち出した。

女子の強化を円滑に運ぶため、竹野部長の要せいで、鈴木委員（ジャスコ監督、元全日本女子監督）を、女子担当委員長とすることも決定した。

このほか、男女各コーチングスタッフが後掲のように承認され、各ナショナルチームに、オフィシャル・サプライヤー制度を導入することを、前向きに検討する申し合せも行われた。

日本協会のあらゆる会議で、オフィシャル・サプライヤー問題が公式に話し合われたのは、今回が初めてである。

また、各委員から、現在の各日韓交流の見直しが発言され、日本協会、各全国連盟の意向を質すこととなった。

◇

○…法人後初の、しかも、竹野氏が部長就任後初の強化委員会とあって、その成果が注目されたが全日本男子が早々と、35名の「56年度ナショナル・プレイヤー」を別表のように明きらかにしたのをはじめ、女子も、強化体制の総点検を目指すなど、実りの多い会議となった。

とりわけ、女子をめぐっての協議は、各委員から活発な意見が繰り出され、来年春に迫った世界選手権予選を乗り切るためには、これまでのような総花的な強化では多くを望めない、とする発言が支配的となった。

池田・全日本女子監督も、モントリオール・オリンピック以降、次々と有力選手が〝引退〟したなどから、選抜チームを組んでの強化よりも、単独チーム・プラス有力選手補強に踏み切る時期に来ている、との見解を示したため、新任の鈴木委員長が中心となって、日本リーグ（前期）明けの７月をメドに、新・全日本女子のノミネートをこの方針を基礎として進めることになった。

また、全日本女子のヨーロッパ遠征について、東ドイツ側の受け入れが難しくなったことから、来春に延期したいとする、荒川専務理事の発言について、各委員が硬化「新・全日本女子の団結のためにも海外遠征は＜絶対の条件＞」との意見をまとめ、５月下旬、スイスで行われる国際トレーナー・シンポジウムに出席の鈴木女子委員長が、ヨーロッパ各国と折しょろ、受け入れてくれる国があれば、７月～９月に派遣することで落ち着いた。

○…男子は、２月のクウェート国際での苦戦、世界ジュニア予選対台湾１回戦での敗戦によって、委員会も、これまでのような楽観ムードはなく、今秋の世界選手権予選、来秋のアジア競技大会（インド）、２年後のロサンゼルス・オリンピック予選に一貫した頂点強化を採るべきだ、との意見に一致した。

全日本男子監督を兼任する竹野部長は、モスクワ・オリンピックに出場するハズだった14名の全日本選手に中堅、新人21名を加えた「56年度ナショナル」の全ぼうを明きらかにした。

この35名のうち28名がＡ、Ｂに分かれて「ジャパン・カップ」に出場、７月末に東京（日体大）で初合宿、そのあと16～20名の「アジア予選候補選手」を指名するとされた。

12月のフランス国際は、参加国が明きらかになった時点で、対策をたてることで異議なかった。

男子ジュニアについては、台湾２回戦の雪じょくと、サウジアラビアとの決勝突破に「不安はない」（竹野部長）との説明があり、目標どおり、アジア代表権を手中にした時は、木野、本田両担当コーチの意向によって、新たに候補チームを編成しなおす。

○…強化問題とは別に、竹野部長が「オフィシャル・サプライヤー」制度を採用する提案を示したのは、この日の会議の大きな焦点といえた。

このシステムは、ナショナル・チームの競技衣服、用具などを、予め〝特定〟したメーカーの製品とするもので、日本協会の各会議で公式に話し合われたのは、初めてのこと。

竹野部長は、これまでも全日本男子監督の立ち場から、他の競技団体同よう、このシステムの導入を日本協会へ要望していたが、日本協会が未審議のため、強化委のテーブルに持ちこんだもの。

各委員の反応は、圧倒的な支持を示し、具体的方法は、竹野部長一任となった。

男女コーチ陣も決まる

日本協会強化部は、５月13日の強化委員会で、男女ナショナルチームのコーチングスタッフを、次のように決め発表した。

監督は男子が竹野奉昭、女子が池田鉄哉氏で変わらない。

〔男子コーチングスタッフ〕東嘉伸、木野実（ジュニア担当）、市原則之、本田洋（ジュニア担当）、野田清、近森克彦、早川清孝、平

岡秀雄。

〔女子コーチングスタッフ〕緒方嗣雄、伊藤宏幸(ジュニア担当)、樫塚正一(ジュニア担当)、谷口俊郎。

TIB(西独)今秋来日

日本協会は、本誌既報のとおり今秋9月下旬、西ドイツのクラブチーム「ツルゲン・マインデ・ベルリン」の男女を招いて親善試合を行うことに正式決定した。

同クラブは、全国リーグ(1～2部)に所属するようなチームではなく、男女ともベルリン地域で活動、強化面より日独両国の親善面を強く打ち出したシリーズになりそう。

いまのところ北関東、東北中心の転戦が予定され、関東学生選抜(男女)も対戦を検討中。

日本協会強化部は、5月13日の強化委員会で「昭和56年男子ナショナルチーム」の名簿を承認、ただちに日本協会へ報告した。

新メンバーは名で、前年度は1名の"新人"も加えていなかったが、今回は、今春学窓を卒えた上村、三本松らを含む10名のルーキーを並べた。

学生勢は尾上を加えた中大トリオと世界学生選手権得点王・西山の4名だけ。

今回発表のメンバーのうち、28名がA、Bに分かれて「ジャパン・カップ」に出場、このあと"合体"して、7月20日ごろから東京で強化合宿、8月上旬に世界選手権アジア予選候補(16～20名)がリストアップされる予定。

昭和56年度男子ナショナルチーム

◇GK

福井 秀人	(29才・湧永薬品)	180cm	52年6月
井藤 英忠	(22・湧永薬品)	185	52年6月
岡部 大	(26・大崎電気)	182	53年11月
原田 昭昌	(23・大崎電気)	181	54年6月
大畑 孝広	(24・本田技研鈴鹿)	184	54年6月
上村 幸彦	(22・大同特殊鋼)	178	初

◇FP

津川 昭	(29・湧永薬品)	180	49年1月
穂積 豊彦	(29・湧永薬品)	180	49年1月
松本 義樹	(28・湧永薬品)	173	初
山本 伸二	(27・湧永薬品)	178	53年11月
生駒 靖夫	(26・湧永薬品)	185	52年6月
志賀 良弘	(25・湧永薬品)	188	52年6月
池ノ上孝司	(25・湧永薬品)	185	52年6月
内田 明克	(22・湧永薬品)	180	初
佐々木信男	(25・本田技研鈴鹿)	178	初
長野 一彦	(24・本田技研鈴鹿)	182	初
坂本 逸雄	(23・本田技研鈴鹿)	174	初
粟屋 敏則	(28・本田技研鈴鹿)	172	初
三本松俊雄	(22・本田技研鈴鹿)	178	初
大原 真造	(29・大同特殊鋼)	175	54年6月
柳川 実	(27・大同特殊鋼)	175	49年1月
中本 満明	(27・大同特殊鋼)	184	52年2月
蒲生 晴明	(27・大同特殊鋼)	192	48年8月
猪野 栄一	(22・中大)	185	54年6月
尾上 良生	(22・中大)	180	初
田口 長雄	(21・中大)	186	54年6月
関 健三	(26・三陽商会)	180	54年2月
山口 哲史	(23・三陽商会)	179	54年6月
斉藤 幸司	(27・大崎電気)	174	49年1月
長野 透	(25・大崎電気)	177	初
斉藤将一郎	(28・湧沢ク)	187	48年8月
辻本 孝仁	(25・大阪イーグルス)	177	54年6月
松井 幸嗣	(24・栃の葉ク)	178	54年6月
仲田 稔	(23・千葉教員)	184	54年6月
西山 清	(22・筑波大)	181	54年6月

・右欄年月は全日本入りを示す

学生、高校とも「東海」が訪韓

全日本学連は、今年の日韓学生交流(男子第13回、女子第8回)について検討を加えていたが、このほど、8月12日から17日まで東海学生選抜軍を派遣することに決めた。

また、第10回(女子第8回)日韓高校交流は、男女とも東浦高校選抜軍が8月18日から20日まで訪韓して行われることが決定した。

本誌196号で報じた日本体協による「日中高校交流」は、8月下旬安城市(愛知)での開催が予定されているが、中国側が準備不足の模様で、行われるかどうかは、五分々々である。

全日本学生、カレドニア遠征

日本協会は、ニューカレドニア地域の各協会から、今夏(7～8月)日本チームを招待したいとの連絡をうけたことを明きらかにした。

相手側の希望は、女子のトップチーム(具体的にジャスコを指名)といわれるが、日本リーグ、国体予選などから該当チームがなく、男子チームの場合は、全日本学連が選抜軍を派遣する意向をもっている。

同地域と日本のハンドボール界は、3年前、全日本学生がフランス・ナショナルと滞同遠征してから急速に親密度を増している。

チェコのクラブ来日希望

日本協会は、チェコの有力クラブが来年、日本への遠征を希望してきていることを明きらかにした。

男子のスラビア・プラハIPS、女子のスラビア・プラハIPSとスロバン・オストラバの三クラブで、いずれも来年7月以降を希望。

各クラブともチェコ1部リーグに所属する強豪、男子のスラビア・プラハIPSは3年前に来日している。

日本協会では、オストラバは時期的に難しいが、プラハ男女の招へいを前向きに検討する。

▽各地学生春季リーグ戦△

北海道学生春季リーグ戦

▼男子一部

教育大函館 16（7―6、9―8）14 函館大
北大 16（7―6、9―7）13 教育大旭川
教育大函館 21（11―5、10―3）8 教育大釧路
函館大 39（18―3、21―8）11 北海道工大
北大 34（19―5、15―4）9 教育大釧路
北大 19（8―9、11―9）18 教育大函館
函館大 27（13―5、14―4）9 教育大旭川
北大 28（17―5、11―5）10 北海道工大
函館大 30（16―5、14―7）12 教育大釧路
教育大旭川 34（19―7、15―3）10 北海道工大
教育大函館 18（9―6、9―7）13 教育大旭川
教育大釧路 16（8―5、8―3）8 北海道工大
教育大函館 39（20―1、19―5）6 北海道工大
教育大旭川 19（12―2、7―5）7 教育大釧路
函館大 21（8―8、13―6）14 北大

【順位】①函館大②北海道教育大函館③北大④北海道教育大旭川⑤北海道教育大釧路⑥北海道工大

関東学生春季リーグ戦

▼男子１部

筑波大1勝 16（5―6、11―7）13 国士大1敗
中大1勝 22（13―9、9―8）15 法大1敗
慶大1勝 14（8―7、6―6）13 早大1敗
日体大1勝 27（15―8、12―5）13 日大1敗
日体大2勝 30（21―7、9―2）9 慶大1勝1敗
日大1勝1敗 23（12―9、11―6）15 早大2敗
国士大1勝1敗 19（8―7、11―11）18 中大1勝1敗
筑波大2勝 27（11―8、16―10）18 法大2敗
筑波大3勝 23（12―7、11―10）17 慶大1勝2敗
国士大2勝1敗 23（10―10、13―11）21 早大3敗
日体大3勝 26（12―3、14―8）11 法大3敗
中大2勝1敗 25（7―9、18―12）21 日大1勝2敗
国士大3勝1敗 21（10―9、11―10）19 日体大3勝1敗
早大1勝3敗 24（10―11、14―12）23 法大4敗
中大3勝1敗 31（15―9、16―3）12 慶大1勝3敗
筑波大4勝 33（15―12、18―9）21 日大1勝3敗
法大1勝4敗 19（10―8、9―10）18 慶大1勝4敗
日大2勝3敗 24（11―11、13―8）19 国士大3勝2敗
中大4勝1敗 30（13―14、17―11）25 早大1勝4敗
日体大4勝1敗 26（13―13、13―12）25 筑波大4勝1敗
日大3勝3敗 21（12―9、9―8）17 法大1勝5敗
慶大2勝4敗 21（11―6、10―10）16 国士大3勝3敗
筑波大5勝1敗 21（10―11、11―4）15 早大1勝5敗
中大5勝1敗 29（17―9、12―8）17 日体大4勝2敗
日大4勝3敗 27（14―12、13―3）15 慶大2勝5敗
国士大4勝3敗 20（12―9、8―9）18 法大1勝6敗
筑波大6勝1敗 31（14―13、17―14）27 中大5勝2敗
日体大5勝2敗 30（17―12、13―11）23 早大1勝6敗

関東男子勝敗表

	筑波	日体	中大	日大	国士	慶大	早大	法大	勝	敗	得失
①筑波大	※	●	○	○	○	○	○	○	6	1	+39
②日体大	○	※	●	○	●	○	○	○	5	2	+44
③中大	●	○	※	○	●	○	○	○	5	2	+42
④日大	●	●	●	※	○	○	○	○	4	3	−1
⑤国士大	●	○	○	●	※	●	○	○	4	3	−6
⑥慶大	●	●	●	●	○	※	○	●	2	5	−53
⑦早大	●	●	●	●	●	●	※	○	1	6	−28
⑧法大	●	●	●	●	●	○	●	※	1	6	−37

▼女子１部

東女体1勝 18（6―6、12―8）14 日女体1敗
日女体1勝1敗 16（5―5、11―6）11 東女体1勝1敗
日体大1勝 41（21―0、20―2）2 千葉明徳1敗
日体大2勝 39（12―1、18―1）2 千葉明徳2勝
筑波大1勝 31（17―6、14―3）9 東学大1敗
筑波大2勝 31（17―4、14―1）5 南学大2敗
日体大3勝 40（21―4、19―2）6 東学大3敗
日体大4勝 38（19―6、19―5）11 東学大4敗
筑波大3勝 38（19―4、19―0）4 千葉明徳3敗
筑波大4勝 35（12―5、23―2）7 千葉明徳4敗
日体大5勝 22（14―7、8―4）11 日女体1勝2敗
日体大6勝 17（8―5、9―6）11 日女体1勝3敗
東女体2勝1敗 31（18―3、13―4）7 東学大5敗
東女体3勝1敗 27（9―5、18―4）9 東学大6敗
日体大7勝 30（14―9、16―3）12 東女体3勝2敗
日体大8勝 21（10―6、11―7）13 東女体3勝3敗
筑波大5勝 25（15―5、10―5）10 日女体1勝4敗
筑波大6勝 25（15―7、10―5）12 日女体1勝5敗
東学大1勝6敗 20（15―4、5―6）10 千葉明徳5敗
東学大2勝6敗 23（12―8、11―3）11 千葉明徳6敗
日女体2勝5敗 21（14―5、7―3）8 千葉明徳7敗
日女体3勝5敗 25（13―8、12―3）11 千葉明徳8敗
筑波大7勝 19（11―7、8―2）9 東女体3勝4敗
筑波大8勝 15（8―4、7―6）10 東女体3勝5敗
日女体4勝5敗 21（10―8、11―6）14 東学大2勝7敗
日女体5勝5敗 20（11―10、9―5）15 東学大2勝8敗
東女体4勝5敗 23（12―8、11―3）11 千葉明徳9敗
東女体5勝5敗 26（13―2、13―3）5 千葉明徳10敗
筑波大9勝 21（9―10、12―8）18 日体大8勝1敗
筑波大10勝 16（10―8、6―7）15 日体大8勝2敗

関東女子勝敗表

	筑波	日体	東女	日女	東学	明徳	勝	負	得失
①筑波大	※	○○	○○	○○	○○	○○	10	0	+157
②日体大	●●	※	○○	○○	○○	○○	8	2	+176
③東女体	●●	●●	※	○●	○○	○○	5	5	+33
④日女体	●●	●●	●○	※	○○	○○	5	5	−5
⑤東学大	●●	●●	●●	●●	※	○○	2	8	−141
⑥明徳大	●●	●●	●●	●●	●●	※	0	10	−220



adidas is sports sports is adidas
株式会社デサント
いくつもの勝利をかさねて、
神話が生まれた。

関西学生春季リーグ戦

▼男子1部

関大1勝 27（14―10 13―9）19 関学大1敗
大経大1勝 23（13―9 10―8）17 京産大1敗
同大1勝 28（15―8 13―16）24 近大1敗
大経大2勝 21（10―6 11―5）11 関大1勝1敗
大体大1勝 28（12―8 16―5）13 近大2敗
同大2勝 24（12―11 12―9）20 京産大2敗
近大1勝2敗 29（13―12 16―8）20 関大1勝2敗
大体大2勝 28（18―7 10―11）18 京産大3敗
同大3勝 30（17―5 13―8）13 関学大2敗
関大2勝2敗 24（11―8 13―14）22 京産大4敗
大経大2勝1分 19（9―9 10―10）19 近大1勝2敗1分
大体大3勝 26（12―7 14―5）12 関学大3敗
大体大4勝 20（13―7 7―4）11 大経大2勝1敗1分
近大2勝2敗1分 23（13―11 10―11）22 関学大4敗
同大4勝 33（14―7 19―10）17 関大2勝3敗
大体大5勝 29（16―6 13―7）13 関大2勝4敗
大経大3勝1敗1分 21（10―8 11―8）16 同大4勝1敗
京産大1勝4敗 27（18―9 9―7）16 関学大5敗
京産大2勝4敗 24（12―11 12―10）21 近大2勝3敗1分
大経大4勝1敗1分 24（13―10 11―2）12 関学大6敗
同大5勝1敗 23（11―10 12―9）19 大体大5勝1敗

▼女子1部

武庫川大1勝 24（8―5 16―1）6 関学大1敗
大教大1勝 15（9―5 6―4）9 和大1敗
大体大1勝 33（17―5 16―4）9 和大2敗
大教大2勝 16（10―7 6―3）10 成蹊女大1敗
京教大1勝 18（7―3 11―3）6 和大3敗
武庫川大2勝 40（26―1 14―3）4 和大4敗
大体大2勝 29（18―3 11―2）5 関学大2敗
大体大3勝 22（8―4 14―4）8 大教大2勝1敗
武庫川大3勝 25（14―2 11―2）4 成蹊女大2敗
和大1勝4敗 11（5―5 6―3）8 関学大3敗
成蹊女大1勝2敗 18（10―4 8―5）9 関学大4敗
大体大4勝 24（11―5 13―2）7 京教大1勝1敗
武庫川大4勝 18（9―1 9―3）4 大教大2勝2敗
京教大2勝1敗 18（8―4 10―2）6 関学大5敗
和大2勝4敗 14（7―4 7―3）7 成蹊女大1勝3敗
大体大5勝 21（12―3 9―7）10 成蹊女大1勝4敗
武庫川大5勝 20（10―2 10―3）5 京教大2勝2敗
大教大3勝2敗 31（15―7 16―4）11 関学大6敗
京教大3勝2敗 9（5―3 4―5）8 成蹊女大1勝5敗
京教大3勝2敗1分 9（3―5 6―4）9 大教大3勝2敗1分
武庫川大6勝 17（8―5 9―5）10 大体大5勝1敗

関西男子勝敗表

	同大	大体	大経	近大	関大	京産	関学	勝	敗	分	得失
①同　大	※	○	●	○	○	○	○	5	1	0	+40
②大体大	●	※	○	○	○	○	○	5	1	0	+60
③大経大	○	●	※	△	○	○	○	4	1	1	+24
④近　大	●	●	△	※	○	●	○	2	3	1	−12
⑤関　大	●	●	●	●	※	○	○	2	4	0	−41
⑥京産大	●	●	●	○	●	※	○	2	4	0	−8
⑦関学大	●	●	●	●	●	●	※	0	6	0	−63

（①～②，⑤～⑥は対戦間）

関西女子勝敗表

	武庫	大体	大教	京教	和大	成蹊	関学	勝	敗	分	得失
①武庫川大	※	○	○	○	○	○	○	6	0	0	+111
②大 体 大	●	※	○	○	○	○	○	5	1	0	+83
③大 教 大	●	●	※	△	○	○	○	3	2	1	+4
④京 教 大	●	●	△	※	○	○	○	3	2	1	−7
⑤和　　大	●	●	●	●	※	○	○	2	4	0	−68
⑥成　　蹊	●	●	●	●	●	※	○	1	5	0	−37
⑦関　　学	●	●	●	●	●	●	※	0	6	0	−86

中・四国学生春季リーグ戦

▼男子1部

山口大 28（15―9 13―11）20 広島工大
山口大 28（16―8 12―12）20 広島大
山口大 32（14―12 18―12）24 島根大
山口大 31（17―11 14―11）22 広大福山
広島大 32（10―14 22―11）25 広島工大
広島大 39（15―12 24―10）22 島根大
広島大 30（17―8 13―7）15 広大福山
広島工大 37（21―13 16―11）24 島根大
広島工大 22（11―6 11―9）15 広大福山
島根大 22（13―8 11―8）16 広大福山

【順位】①山口大4勝②広島大3勝1敗③広島工大2勝2敗④島根大1勝3敗⑤広大福山4敗

▼女子の部

山口大 13―6 岡山県短大
山口大 17―6 高知大
山口大 15―6 岡山大
岡山県短大 16―12 岡山大
岡山県短大 17―4 高知大
高知大 9―8 岡山大

【順位】①山口大②岡山県短大③高知大④岡山大

プレス・ルーム ＜32＞

杉　山　茂
──（ＮＨＫ運動部）─

■欠ける「役員一丸」の姿勢

財団法人の看板を背負って新しい船出した日本協会、どうやら、その行く先には、さざ波が立っているようである。

もとより、任意団体時代とはちがって、社会的な責任がグンと増したのだ。平隠無事ばかりであっては、すまされないのだが、聞こえてくる話は、実のところ、そのような高い次元のものではない。

なかでも、法人の行くさきを一見案じているように思わせて、実はなまなましいのが理事の人選と常務理事の"縮少"である。

専務理事となった荒川清美氏は「法人化されたら理事は会長、副会長を含め20名」を明言し、本誌にも、寄付行為案を掲載するなどしたが、いざ施行となると、はみ出す人が10名近く出て、さっぱりとした＜組閣＞には、ならなかったようだ。

荒川氏の打ち明け話によると、3月11日法人認可と同時に理事陣を編成、そのスタッフは3月31日限りで任期満了とするハラだった

しかし、わずか3週間で文部省に対し人事異動の手つづきをするのは……という声が内部に出て、暫定スタッフを、そのまま新年度人事になだれこませた。

それはそれで拙い判断とは思わぬが、問題は、常務理事の仕事を受け持てる在京のかたが、極度に少いことだ。

荒川氏の腹案どおりにコトが運べていれば、4月以降の新理事陣の構成は、在京、在地方各10名であった、と伝えられる。

そうしたこともあってか、法人後、最初の大事業である世界ジュニアの予選にしても、「ジャパンカップ81」にしても、日本協会の手際は、どうもよくない。

理事にしても、常務理事にしても、財団法人という誇りと責任を持ってもらわなければ困る。

少人数の苦労は察するが、この点、いささか、「新」役員の姿勢や行動は、甘くないのか。

常務理事が少ないなら少ないように、互いの分担をオーバーラップさせて、一丸の活動をしなければ、この＜急場＞を乗りこえることはできまい。

財団法人になって、本部と地方協会、各全国連盟は「評議員」という一本のパイプでしか、つながりがない。

ただでさえ心細い状態の時、本部が、法人前と同じセンスでコトを運び、すべてモタモタしているようだと、行く手のさざ波が、嵐を呼ぶことになりかねまい。

■「ジュニア」の難しさ

世界ジュニア・アジア予選日本×台湾1回戦。

まったく予想もしない結果に終った。

日ごろ、アジア諸国の急速な日本への接近を説いている手前、台湾が、どこまで食下ってくるかは強化関係者や、他の専門家より、期待の度合を高めていた私だが、まさか、日本がいかれるとは思ってもみなかった。

前半を終ったところで、どうしようもない気持ちにかられ、記者席へ竹野奉昭・全日本男子監督に来てもらったが、彼も、しだいに口数（くちかず）が少なくなり、私と同じように、どうしようもない気持ちになったらしく、試合が終るや早々と家路についてしまった。

ところが、である。翌日の2回戦、まるで前日とは違うチームの試合を見る思いだった。

1回戦の3点差は、なんとなくいやなスコアだったが、若い全日本は、それを苦もなく撥ね返し、いともあっさり、決勝進出を決めてみせた。

敗れた台湾も"ひょう変"していた。前日のスマートな試合ぶりは、カゲをひそめ、投げやりでラフなプレーが連続、第1戦の健斗を台なしにする拙戦で退いた。

「そこがジュニアの難しいところなのですよ」と木野実監督、本田洋両コーチは、納得のいかない顔の私に、熱心に説明してくれた。

年令制限のあるジュニア、全日本といえども「1年生の集り」みたいなものだ。

だから、試合のペースをつかみ流れを読む選手がいない。

一人がピンチなら全員がピンチ一人が勢いにのれば全員がのる。

しかも、ほとんどの選手は、ホームチームに帰れば、やっと準レギュラーの立ち場。

「1試合フル出場したのは高校以来かなあ」なんていう選手が、ざらにいるのだ。

そうした選手が、日の丸のユニホームを渡され、きょうが世界へつながる第一歩、などといわれてコートにとび出しても、なにをやってよいのか分からない。ムリもないのだ—。

とっくに、こうした選手の心情をつかんでいた両コーチは、だから、1回戦の敗退も気にしていなかった。

「彼らの気持ちの切り替えの早さまあ見ててごらんなさい」。

でも、1回戦と2回戦、どちらが真のチーム力だったのだろう。日、台逆の結果を招く危険性もあったのでは、と考えると、またまた、私の気持ちは、どうしようもなくなる。

サウジアラビアとの決勝、さらに本大会。どうか、よいほうの全日本でありますように……。

◇高校各ブロック大会(1)◇

◉第34回東北高校選手権

≪男子≫

▽1回戦

盛岡商（岩手）21（8-9、13-5）14 仙台育英（宮城）

野辺地（青森）25（13-7、12-2）9 大曲農（秋田）

仙台（宮城）25（14-8、11-9）17 新庄工（山形）

青森商（青森）28（15-9、13-8）17 盛岡四（岩手）

▽2回戦

学法石川（福島）17（8-11、9-5）16 盛岡商

野辺地 19（11-9、8-7）16 大石田（山形）

仙台一 23（10-6、13-10）16 安積（福島）

青森商 24（13-11、11-5）16 湯沢（秋田）

▽準決勝

学法石川 18（6-8、12-6）14 野辺地

仙台一 21（11-10、10-10）20 青森商

▽決勝

学法石川 18（11-5、7-8）13 仙台一

≪女子≫

▽1回戦

古川商（宮城）10（4-2、6-1）3 日大山形（山形）

長沼（福島）11（4-7、7-2）9 青森西（青森）

郡山女（福島）13（8-4、5-2）6 青森中央（青森）

盛岡二（岩手）12（4-5、8-4）9 米沢女（山形）

▽2回戦

古川商 12（3-0、0-0、4-2、5-7）9 秋田和洋女（秋田）

花巻北（岩手）11（2-1、1-0、4-5、4-3）9 長沼

大曲農（秋田）14（7-6、7-4）10 郡山女

涌谷（宮城）12（8-5、4-3）8 盛岡二

▽準決勝

古川商 8（5-3、3-3）6 花巻北

大曲農 13（5-3、8-4）7 涌谷

▽決勝

大曲農 16（10-2、6-6）8 古川商

◉第27回関東高校選手権

（6月6～8日）

≪男子≫

▽1回戦

土浦工（茨城）16（6-7、10-7）14 馬頭（栃木）

前橋商（群馬）27（13-6、14-3）9 足利工（栃木）

甲府一（山梨）20（15-8、5-7）15 柏（千葉）

吉井（群馬）22（12-3、10-8）11 日大明誠（山梨）

駒大商（東京）17（11-7、6-7）14 小山南（栃木）

中大附（東京）21（12-11、9-9）20 川崎市工（神奈川）

浦和実（埼玉）24（12-1、12-1）2 市川（千葉）

横浜商工（神奈川）32（15-10、17-4）14 笠間（茨城）

浦和西（埼玉）21（12-8、9-6）14 船橋旭（千葉）

▽2回戦

川口工（埼玉）31（17-8、14-4）12 土浦工

前橋商 28（16-7、12-7）14 麻生（茨城）

富岡（群馬）24（12-10、12-7）17 甲府一

明星（東京）27（14-5、13-7）12 吉井

駒大高 24（13-9、11-5）14 川和（神奈川）

日川（山梨）31（18-8、13-8）16 中大附

浦和実 24（11-10、13-7）17 国学院栃木（栃木）

浦和西 19（11-9、8-9）18 横浜商工

▽3回戦

川口工 25（11-12、14-5）17 前橋商

明星 19（11-4、8-6）10 富岡

駒大高 16（3-0、0-1、6-5、7-8）14 日川

浦和実 21（10-7、11-7）14 浦和西

▽準決勝

川口工 17（9-7、8-6）13 明星

浦和実 26（12-5、14-6）11 駒大高

▽決勝

川口工 22（11-7、11-11）18 浦和実

≪女子≫

▽1回戦

桐朋女（東京）7（2-3、5-2）5 生田（神奈川）

栃木女（栃木）15（7-2、8-0）2 高崎市女（群馬）

東邦（千葉）10（4-5、6-2）7 藤岡（栃木）

鉾田二（茨城）19（10-5、9-3）8 成美学園（神奈川）

吉井（群馬）12（8-6、4-4）10 桂（山梨）

麻生（茨城）11（4-5、7-4）9 川口工（埼玉）

桜水商（東京）18（11-3、7-1）4 小山城南（栃木）

山梨（山梨）17（8-5、9-5）10 千葉和洋女（千葉）

浦和実（埼玉）16（5-7、11-4）11 藤村女（東京）

▽2回戦

水海道二（茨城）15（9-5、6-6）11 桐朋女

栃木女 13（7-4、6-3）7 日川

東邦 15（7-4、8-10）14 群馬女短附（群馬）

川口北（埼玉）16（6-3、10-8）11 鉾田二

国学院栃木 16（10-6、6-2）8 吉井

明倫（神奈川）15（7-5、8-4）9 麻生

昭和学院（千葉）10（7-3、3-1）4 桜水商

浦和実 10（7-4、3-3）7 山梨

▽3回戦

昭和学院 16（9-2、7-6）8 浦和実

国学院栃木 12（7-5、5-3）8 明倫

川口北 13（7-6、6-3）9 東邦

水海道二 14（6-3、8-5）8 栃木女

▽準決勝

昭和学院 15（8-4、7-6）10 国学院栃木

水海道二 14（6-5、8-6）11 川口北

▽決勝

昭和学院 10（6-4、4-1）5 水海道二

◉第28回東海高校総体

≪男子≫

▽1回戦

清水市商（静岡）16（10―6、6―9）15 愛知（愛知）
四日市工（三重）25（12―4、13―8）12 岐阜北（岐阜）
静岡農（静岡）26（13―6、13―8）14 桑名（三重）
県岐阜商（岐阜）15（7―5、8―7）12 一宮西（愛知）

▽準決勝
四日市工 16（7―7、9―6）13 清水市商
静岡農 13（7―5、6―7）12 県岐阜商

▽3位決定戦
県岐阜商 14（7―8、7―5）13 清水市商

▽決勝
四日市工 22（12―9、6―9、2―2、2―1）21 静岡農

≪女子≫

▽1回戦
名短大（愛知）14（7―7、7―4）11 二俣（静岡）
暁（三重）15（6―2、9―4）6 富田女（岐阜）
静岡城北（静岡）17（8―5、9―7）12 津女（三重）
緑ケ丘商（愛知）9（3―2、6―5）7 本巣（岐阜）

▽準決勝
暁 15（5―4、5―6、2―1、0―1、2―0、1―2）14 名古屋短大付
静岡城北 17（6―7、11―4）11 緑ケ丘商

▽3位決定戦
名古屋短大付 15（11―4、4―7）11 緑ケ丘商

▽決勝
暁 10（4―3、6―3）6 静岡城北

インターハイ各県予選

◆大阪府

◎中地区（5月4、5、9、10、16日）

≪男子≫

▽1回戦
八尾 21―8 東住吉
山本 34―7 清友
住吉 23―8 花園
阪南 9―8 上宮
成器 18―6 八尾東
藤井寺 11―6 教大平野
清風 14―11 生野

▽2回戦
此花学院 26―9 八尾
羽曳野 16―12 山本
阿倍野 12―6 天王寺
阪南 13―10 松原
藤井寺工 17―14 成器
大和川 20―9 藤井寺
桃山学院 18―4 清風

▽3回戦
此花学院 27―7 羽曳野
住吉 13―10 阿倍野
阪南 30―8 藤井寺工
桃山学院 21―9 大和川

▽準決勝
此花学院 32―6 住吉
桃山学院 18―12 阪南

▽決勝
此花学院 22（9―6、13―6）12 桃山学院

▽敗者トーナメント1回戦
松原 21―6 東住吉
天王寺 17―10 生野
清風 16―7 市立工芸
成器 没収 清友
上宮 13―9 八尾
藤井寺 11―10 花園

▽2回戦
松原 26―13 山本
天王寺 16―7 清風
教大平野 21―9 成器
上宮 22―9 藤井寺

▽3回戦
松原 20―8 羽曳野
阿倍野 20―6 天王寺
大和川 14―13 教大平野
上宮 24―7 藤井寺工

▽4回戦
松原 11―6 阿倍野
上宮 18―10 大和川

▽5回戦
松原 17―11 阪南
上宮 16―10 住吉

▽4位決定戦
上宮 11―10 松原

▽2、3位決定戦
桃山学院 19―11 上宮

≪女子≫

▽1回戦
大和川 12―4 高津
池島 15―3 阪南

▽2回戦
城南 14―4 大和川
天王寺 4―3 鶴見商
樟蔭東 14―5 清友
八尾 不明 八尾東
四天王寺 12―7 山本
東住吉 4―3 生野
西浦 8―4 藤井寺
大谷 12―7 池島

▽3回戦
城南 12―4 天王寺
八尾 10―6 樟蔭東
四天王寺 10―2 東住吉
大谷 37―1 西浦

▽準決勝
城南 18―4 八尾
四天王寺 14―6 大谷

▽決勝
城南 6（4―2、2―2）4 四天王寺

▽敗者トーナメント1回戦
山本 17―3 高津
阪南 19―6 八尾東

▽2回戦
山本 14―5 鶴見商
大和川 15―10 池島
生野 3―2 清友
阪南 24―5 藤井寺

▽3回戦
山本 34―2 西浦
大和川 8―2 東住吉
樟蔭東 9―3 生野
天王寺 11―6 阪南

▽4回戦
山本 14―8 大和川
天王寺 6―3 樟蔭東

▽5回戦
山本 16－12 八尾
大谷 10－2 天王寺
▽4位決定戦
大谷 10－9 山本
▽2、3位決定戦
大谷 5－4 四天王寺

◎東地区
（5月3、4、5、9、10、16日）
《男子》
▽1回戦
茨木東 12－11 守口北
淀川工 12－9 寝屋川
高槻北 29－4 芥川
交野 10－8 盾津
浪商 19－5 同志社香里
西寝屋川 20－17 牧野
茨木工 31－6 鳥飼
三島 28－5 野崎
門真 22－9 大東
関西大倉 18－6 島本
南寝屋川 13－6 長尾
加納 19－10 茨木
▽2回戦
摂津 24－4 茨木東
高槻北 13－10 淀川工
浪商 27－4 交野
西寝屋川 12－12 四条畷（PTC 2－0）
春日丘 28－6 茨木工
三島 25－15 門真
南寝屋川 16－15 関西大倉
枚方 17－2 加納
▽3回戦
摂津 16－11 高槻北
浪商 46－6 西寝屋川
三島 13－8 春日丘
枚方 22－9 南寝屋川
▽準決勝
摂津 17－15 浪商
枚方 8－8 三島（PTC 1－0）
▽決勝
枚方 12（8－4、4－8）12 摂津（PTC 2－1）
▽敗者トーナメント1回戦
寝屋川 40－1 芥川
同志社香里 8－8 盾津（PTC 3－1）
野崎 12－11 大東
島本 18－10 長尾
▽2回戦
寝屋川 31－7 茨木東
淀川工 21－5 守口北
同志社香里 16－13 四条畷
交野 23－9 牧野
茨木工 34－9 野崎
門真 27－2 鳥飼
加納 15－14 島本
関西大倉 26－20 茨木
▽3回戦
寝屋川 22－15 淀川工
交野 8－7 同志社香里
門真 22－18 茨木工
加納 19－15 関西大倉
▽4回戦
寝屋川 42－9 西寝屋川
高槻北 26－7 交野
門真 22－14 南寝屋川
春日丘 17－5 加納
▽5回戦
寝屋川 21－12 高槻北
春日丘 27－13 門真
▽6回戦
三島 16－12 寝屋川
浪商 15－10 春日丘
▽4位決定戦
浪商 19－8 三島
▽2、3位決定戦
浪商 19－11 摂津

《女子》
▽1回戦
大阪市立 11－2 西寝屋川
枚方 20－1 芥川
香里丘 6－5 大東
寝屋川 14－3 茨木
牧野 12－5 長尾
創価女子 9－4 茨木東
▽2回戦
春日丘 10－9 門真
大阪市立 7－7 南寝屋川（PTC 4－3）
枚方 37－1 交野
守口北 14－2 香里丘
寝屋川 13－9 島本
牧野 7－5 高槻北
創価女子 24－3 東寝屋川
摂津 19－0 三島
▽3回戦
春日丘 16－5 南寝屋川
枚方 12－2 守口北
寝屋川 12－6 牧野
摂津 13－6 創価女子
▽準決勝
枚方 7－5 春日丘
摂津 14－8 寝屋川
▽決勝
枚方 12（4－2、8－2）4 摂津
▽敗者トーナメント1回戦
門真 29－2 西寝屋川
香里丘 4－2 芥川
大東 13－1 交野
茨木 6－6 高槻北（PTC 2－0）
長尾 10－8 島本
茨木東 7－1 三島
▽2回戦
門真 13－4 大阪市立
大東 8－5 香里丘
長尾 7－4 茨木
茨木東 16－2 東寝屋川
▽3回戦
門真 11－2 守口北
南寝屋川 16－4 大東
創価女子 15－7 長尾
牧野 6－4 茨木東
▽4回戦
門真 15－6 南寝屋川
牧野 11－7 創価女子
▽5回戦
門真 19－9 寝屋川
春日丘 16－2 牧野
▽4位決定戦
春日丘 10－8 門真
▽2、3位決定戦
春日丘 12－6 摂津

◎南地区
（5月3、4、5、9、10、14日）
《男子》
▽1回戦
岸和田産 16－14 泉陽
堺東 12－7 上神谷
和泉 23－9 泉大津
高石 18－3 堺工
久米田 25－12 貝塚
初芝 35－11 堺西
住之江 19－13 長野
商大堺 19－10 岸和田
▽2回戦
岸和田産 17－16 貝塚南
堺東 19－8 長野北
和泉 21－14 富田林
高石 18－2 金岡
泉北 22－15 久米田
三国丘 19－11 初芝
鳳 19－16 住之江
商大堺 17－16 登美丘
▽3回戦
岸和田産 16－11 堺東
和泉 12－9 高石
三国丘 12－12 泉北（PTC 1－0）
商大堺 22－15 鳳
▽準決勝
岸和田産 18－14 和泉
商大堺 14－12 三国丘
▽決勝
商大堺 17（6－4、11－8）12 岸和田産
▽敗者トーナメント1回戦
泉陽 29－8 長野北
貝塚南 22－4 上神谷
泉大津 13－12 金岡
富田林 10－8 堺工
初芝 22－10 貝塚

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.



兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06・305-1431：〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03・634-1411

久米田 29－7 堺西
登美丘 21－4 長野
岸和田 21－14 住之江

▽2回戦
貝塚南 33－16 泉陽
富田林 15－9 泉大津
初芝 26－17 久米田
登美丘 17－11 岸和田

▽3回戦
貝塚南 15－9 坪田
堺東 18－8 富田林
初芝 23－16 鳳
泉北 19－11 登美丘

▽4回戦
貝塚南 23－16 堺東
泉北 11－7 初芝

▽5回戦
貝塚南 11－11 三国丘（PTC 1－0）
和泉 19－12 泉北

▽4位決定戦
貝塚南 17－10 和泉

▽2、3位決定戦
岸和田産 16－16 貝塚南（PTC 2－0）

≪女子≫

▽1回戦
泉北 16－2 泉大津
三国丘 18－2 長野北

▽2回戦
住学 12－2 高石
泉北 9－4 長野
堺東 5－5 貝塚南（PTC 1－0）
鳳 10－1 久米田
岸和田 14－10 初芝

岸和田産 7－3 三国丘
東百舌鳥 13－8 貝塚
和泉 棄権 金岡

▽3回戦
住学 9－3 泉北
堺東 9－5 鳳
岸和田産 9－6 岸和田
和泉 24－1 東百舌鳥

▽準決勝
住学 16－3 堺東
和泉 8－4 岸和田産

▽決勝
住学 8（4－3、4－3）6 和泉

▽敗者トーナメント1回戦
長野 23－5 泉大津
三国丘 棄権 長野北

▽2回戦
長野 8－5 高石
貝塚南 8－6 久米田
三国丘 10－4 初芝
貝塚 棄権 金岡

▽3回戦
鳳 8－6 長野
泉北 9－3 貝塚南
三国丘 13－9 東百舌鳥
岸和田 棄権 貝塚

▽4回戦
泉北 5－5 鳳（PTC 2－1）
岸和田 8－5 堺東

▽4位決定戦
泉北 8－5 岸和田

▽2、3位決定戦
和泉 8－8 泉北（PTC 1－0）

◎北地区（5月3、4、5、9、10、16日）

≪男子≫

▽1回戦
池田 27－4 西淀川
桜宮 29－10 西野田工
桜塚 25－11 西豊中
北野 15－10 市岡
豊中 13－11 箕面

▽2回戦
都島工 30－10 豊島
大阪商 22－11 吹田東
大阪学院 31－2 東淀川
池田 12－10 千里
北淀 17－7 桜宮
桜塚 33－3 扇町
北野 27－10 箕面学
北陽 18－7 豊中

▽3回戦
都島工 26－4 池田
北淀 15－13 大阪商
大阪学院 23－10 桜塚
北陽 16－12 北野

▽準決勝
都島工 22－6 北淀
大阪学院 14－13 北陽

▽決勝
都島工 18（6－4、12－5）9 大阪学院

▽敗者トーナメント1回戦
東豊中 17－7 西淀川
千里 13－13 箕面（PTC 3－2）
市岡 27－10 西野田工
豊島 24－11 東淀川
吹田東 13－13 豊中（PTC 3－2）

▽2回戦
箕面学 24－7 東豊中
桜宮 20－13 千里
市岡 24－7 扇町
豊島 23－11 吹田東

▽3回戦
大阪商 34－4 箕面学
桜宮 18－12 桜塚
市岡 21－15 池田
北野 14－14 豊島（PTC 3－2）

▽4回戦
大阪商 13－13 桜宮（PTC 3－2）
北野 18－17 市岡

▽5回戦
北淀 14－13 大阪商
北陽 23－8 北野

▽4位決定戦
北陽 22－9 北淀

▽2、3位決定戦
北陽 15－10 大阪学院

≪女子≫

▽1回戦
北野 21－3 西淀川
宣真 9－7 渋谷

▽2回戦
桜宮 17－3 池田
刀根山 5－1 市岡
桜塚 18－5 千里
豊島 16－3 梅花
薫英 15－6 北淀
豊中 15－0 東淀川
箕面 16－3 北野

成蹊 13―7 宣真

▽3回戦
桜宮 14―2 刀振山
箕面 4―4 桜塚（2PTC0）
豊島 14―5 薫英
豊中 10―8 成蹊

▽準決勝
箕面 10―8 桜宮
豊島 9―1 豊中

▽決勝
箕面 4（1―2、3―1）3 豊島

▽敗者トーナメント1回戦
渋谷 25―5 西淀川
梅花 4―4 市岡（1PTC0）

2回戦
池田 9―7 渋谷
千里 8―3 東淀川
北野 13―6 梅花
北淀 8―5 宣真

▽3回戦
薫英 7―2 池田
東淀川 10―4 刀振山
成蹊 13―3 北野
桜塚 19―4 北淀

▽4回戦
薫英 10―6 千里
桜塚 14―7 成蹊

▽5回戦
桜宮 9―6 薫英
桜塚 9―3 豊中

▽4位決定戦
桜塚 13―10 桜宮

▽2、3位決定戦
豊島 10―10 桜塚（3PTC2）

◎中央大会（6月7、20、21、23日）

≪男子≫

▽1回戦
此花学院 22―7 北淀
摂津 15―13 岸和田産
都島工 22―12 三島
桃山学院 19―10 貝塚南
枚方 16―11 和泉
北陽 15―13 上宮
松原 19―18 商大堺
浪商 14―12 大阪学院

▽2回戦
此花学院 16―11 摂津
都島工 12―8 桃山学院
北陽 16―15 枚方
浪商 28―11 松原

▽5位決定リーグ戦
摂津 22―11 松原
桃山学院 27―19 枚方
桃山学院 11―11 摂津
枚方 17―10 松原
摂津 21―9 枚方
桃山学院 20―11 松原

▽決勝リーグ戦
此花学院 21（11―8、10―5）13 浪商
都島工 17（6―5、11―3）8 北陽
都島工 12（7―3、5―4）7 此花学院
北陽 13（5―9、8―4）13 浪商
都島工 23（12―4、11―10）14 浪商
此花学院 20（9―6、11―9）15 北陽

〔順位〕①都島工②此花学院③北陽④浪商⑤摂津

≪女子≫

▽1回戦
城南 6―4 門真
和泉 15―6 桜塚
住吉学園 6―5 桜宮
四天王寺 7―6 春日丘
枚方 15―5 山本
豊島 14―6 泉北
箕面 24―2 岸和田
大谷 6―5 摂津

▽2回戦
城南 8―3 和泉
住吉学園 7―5 四天王寺
枚方 16―8 豊島
箕面 10―3 大谷

▽決勝リーグ
城南 11（6―5、5―5）10 箕面
枚方 8（2―3、6―4）7 住吉学園
城南 11（9―4、2―6）10 住吉学園
枚方 7（6―3、1―2）5 箕面
枚方 7（3―1、4―1）2 城南
住吉学園 9（4―2、5―7）9 箕面

〔順位〕①枚方②城南③住吉学園④箕面

◆高知県

（5月23、24日）

≪男子≫

▽1回戦
吾北 14―12 中芸
幡農 31―11 須工
伊商 14―8 須崎

▽2回戦
追手前 25―10 吾北
幡農 20―18 中村
西 33―10 東
土佐 27―6 伊商

▽準決勝
追手前 18（7―11、9―5、1―0、1―0）16 幡農
土佐 24（10―11、14―12）23 西

▽3位決定戦
幡農 28（14―7、14―7）14 西

▽決勝
追手前 18（9―7、9―5）12 土佐

≪女子≫

▽1回戦
東 14―5 須崎
中村 8―4 西
佐川 23―5 中芸

▽準決勝
大正 15（9―1、6―1）2 東
佐川 21（10―10、11―4）14 中村

▽3位決定戦
中村 12（4―3、8―8）11 東

▽決勝
佐川 11（5―4、6―5）9 大正

各地の記録

七戸ユニオンが3回目

第4回東北クラブ選手権は5月4、5の両日山形県体育館に8チーム（男子のみ）を集めてトーナメントで行われ、七戸ユニオン（青森）が、決勝で花巻ク（岩手）を破り、3回目の優勝を飾った。

▽1回戦

七戸ユニオン（青森） 33（18－13、15－7）20 大曲農OB（秋田）
東北学院大OB会（宮城） 31（18－11、13－6）17 大石田高矢作会（山形）
東根球友会（山形） 20（13－8、7－7）15 大曲ク（秋田）
花巻ク（岩手） 29（15－11、14－6）17 古川工OB（宮城）

▽準決勝

花巻ク 21（12－11、9－8）19 東根球友会
七戸ユニオン 26（10－11、11－10、3－2、2－1）24 東北学院大OB会

▽決勝

七戸ユニオン 28（15－9、13－9）18 花巻ク

徳山クの7連勝成らず

伝統の第26回（女子第9回）中国一般選手権は、5月17、18の両日松江工高体育館を主会場にして行われた。

16チーム参加の男子は、2週前に名古屋で全日本実業団選手権を制した湧永薬品（広島）が、圧倒的な力をみせ、2年連続5度目の優勝を飾った。

4チームの女子は、1回戦で7連勝を狙う徳山ク(山口)が、広島HFGに敗れる波乱があり、勢いにのった広島HFGが、決勝で米子ク(鳥取)を破り、初優勝した。

▽男子1回戦

湧永薬品（広島） 39－7 中部ク（鳥取）
下関ク（山口） 37－24 倉敷工OB（岡山）
岩国ク（山口） 39－14 朝酌ク（島根）
岡山教員（岡山） 27－18 松江工高ク（島根）
境港市ク（鳥取） 26－19 天城高OB（岡山）
島根チーム（島根） 24（分）24 呉ベアーズ（広島）
PTC3－2で島根の勝ち
島根大（島根） 30－17 関金ク（鳥取）
武田薬品光（山口） 28－19 海上自衛隊呉（広島）

▽同準々決勝

湧永薬品 33－20 下関ク
岩国ク 32－20 岡山教員
島根チーム 31－29 境港市ク
武田薬品光 30－21 島根大

▽同準決勝

湧永薬品 26（12－6、14－6）12 岩国ク
島根チーム 33（14－15、19－10）25 武田薬品光

▽同決勝

湧永薬品 49（25－6、24－10）16 島根チーム

▽女子1回戦（＝準決勝）

広島HFG（広島） 19－10 徳山ク（山口）
米子ク（鳥取） 28－15 松江ク（島根）

▽同決勝

広島HFG 24（11－8、13－9）17 米子ク

全宮崎の王座ゆるがず

第17回九州選手権（一般男子）は、5月16、17日の2日間、宮崎県都城で14チームのトーナメントによって争われ、若手教員主軸の全宮崎が安定した攻守で勝ち進み3連勝を飾った。

▽1回戦

神埼ク（佐賀） 31－26 鹿児島大（鹿児島）
北九州ク（福岡） 34－28 佐世保ク（長崎）
本田技研熊本（熊本） 32－26 新日鉄大分（大分）
葉隠ク（佐賀） 25－24 鹿児島ク（鹿児島）
大分大（大分） 31－28 宮崎ク（宮崎）
赤間ク（福岡） 36－14 宮崎大（宮崎）

▽準々決勝

全宮崎（宮崎） 42－20 神埼ク
本田技研熊本 23－22 北九州ク
葉隠ク 35－22 大分大
赤間ク 31－30 熊本教員（熊本）

▽準決勝

全宮崎 31（17－9、14－7）16 本田技研熊本
葉隠ク 27（9－10、11－10、0－2、3－1、2－3、2－0）26 赤間ク

▽決勝

全宮崎 28（17－7、11－10）17 葉隠ク

女子クラブは福岡教大

第11回九州女子クラブ大会は、5月16、17日宮崎県都城市に8チームが集って行われ、福岡教大（福岡）が、現役チームの強みを発揮して大分東シニア・ク（大分）らを降し初優勝した。

▽1回戦

福岡教大（福岡） 29－16 大分東シニア・ク（大分）
小林ク（宮崎） 16－13 鹿児島ク（鹿児島）
長崎ク（長崎） 16（延）15 宮崎ク（宮崎）
神埼ク（佐賀） 15－13 熊本グローズ（熊本）

▽準決勝

福岡教大 22（11－7、11－4）11 小林ク
神埼ク 16（10－8、6－4）12 長崎ク

▽決勝

福岡教大 31（17－8、14－8）16 神埼ク

男子は佐世保勢勝つ

▼長崎県春季選手権（4月・島原農高）

▽一般男子1回戦（3試合）

佐世保教育隊 26－10 総合科学大
九十九ク 27－13 長崎大
佐世保ク 28－9 大村航空隊

▽同準決勝

口加ク 28－16 佐世保教育隊
佐世保ク 27－17 九十九ク

▽同決勝

佐世保ク 22（14－6、8－11）17 口加ク

▽高校男子準々決勝

長崎南 17－15 瓊浦
佐世保北 18－12 佐世保商
長崎工 28－18 口加
日大 16－12 長崎北

▽同準決勝

長崎工 16－11 長崎南
佐世保北 15－10 日大

▽同3位決定戦

長崎南 15－14 日大

▽同決勝

佐世保北 21（13－2、8－3）5 長崎工

▽同女子1回戦（3試合）

佐世保商 18－4 有馬商
佐世保北 7－6 長崎北
日大 14－8 佐世保西

▽同準決勝

日大 11－9 佐世保商
島原農 14－3 佐世保北

▽同3位決定戦

佐世保商 9－8 佐世保北

▽同決勝
島原農 7（3-3 4-2）5 日大

野辺地と青森中央

▼第31回青森県春季高校選手権（5月・五所川原高）

▽男子準々決勝
青森商 25-1 五所川原工
三本木 14-13 鰺ヶ沢
青森 26-20 五所川原
野辺地 15-13 柏木農

▽同準決勝
青森商 26-10 三本木
野辺地 24-7 青森

▽同決勝
野辺地 16（14-6 2-9）15 青森商

▽女子1回戦（2試合）
七戸 12-0 青森東
野辺地 17-7 三本木

▽同準決勝
青森中央 17-9 七戸
青森西 15-6 野辺地

▽同決勝
青森中央 19（10-2 9-5）7 青森西

彦根西、彦根南おさえる

▼滋賀県春季高校大会（5月・彦根市民体育センター）

▽男子決勝リーグ
八幡工 25-21 彦根東
高島 21-13 彦根工
八幡工 27-14 高島
彦根東 31-12 彦根工
彦根東 24-9 高島
八幡工 29-13 彦根工

【順位】①八幡工②彦根東③高島④彦根工

▽女子決勝リーグ
彦根西 19-6 大津商
彦根南 25-11 守山女
彦根西 10-7 守山女
彦根南 10-5 大津商
守山女 13-5 大津商
彦根西 9-8 彦根南

【順位】①彦根西②彦根南③守山女④大津商

福井教員が前期制す

▼福井県前期選手権（5月・北陸電力体育館）

▽一般男子準々決勝
福井教員 28-19 成和送球会
光陽会 20-18 羽球会
レッドボンバーズ 16-11 敦賀動勲
北陸電力 18-6 スターズ

▽同準決勝
福井教員 21-11 光陽会
北陸電力 棄権 レッドボンバーズ

▽同決勝
福井教員 15（8-5 7-8）13 北陸電力

▽女子準々決勝
福井商高 18-8 北陸高
武生商高 23-2 仁徳短大
仁愛高 19-8 フェニックス
全福井 11-2 羽水高

▽同準決勝
福井商高 15-3 武生商高
全福井 12-10 仁愛高

▽同決勝
福井商高 9（4-5 5-3）8 全福井

▽高校男子決勝
北陸 21-10 羽水

男子は氷見クが同門対決

▼富山県春季選手権（5月・高岡向陵高）

▽男子準々決勝
氷見ク 15-13 富山教員
桜樹ク 棄権 高商ク
想球会 20-12 富山大
氷見ク・シニア 26-18 八尾ク

▽同準決勝
氷見ク 25-5 桜樹ク
氷見ク・シニア 31-16 想球会

▽同決勝
氷見ク 21（8-9 8-7：3-2 2-1）19 氷見ク・シニア

▽女子1回戦（1試合）
有磯OG 17-9 桜球会

▽同準決勝
高岡女OG 9-5 想球会
有磯OG 17-9 小杉OG

▽同決勝
有磯OG 15（8-5 7-4）9 高岡OG

男子は山形大が優勝

▼第7回山形県春季選手権（4月・日大山形高）

▽男子準々決勝
山形大 32-5 東根工高
寒河江ク 15-11 大石田高
東根球友会 19-11 真室川高
大石田矢作会 13-12 新庄ク

▽同準決勝
山形大 19-7 寒河江ク
東根球友会 棄権 大石田矢作会

▽同決勝
山形大 棄権 東根球友会

▽女子一回戦（1試合）
日大山形高 12-6 竹田女高

▽同決勝
米沢女高 14（11-3 3-1）4 日大山形高

男女とも小松勢強味

▼石川県高校春季大会（4月・石川県体育館）

▽男子準々決勝
小松 15-10 小松商
小松工 12-8 泉丘
県工 18-14 大聖寺
明峰 19-11 羽咋

▽同準決勝
小松工 14（分）14 小松
PTC7-6で小松工の勝ち
明峰 17-10 県工

▽同決勝
小松工 24（11-7 13-11）18 明峰

▽女子1回戦（1試合）
松任 10（分）10 加賀
PTC1-0で松任の勝ち

▽同準決勝
金沢商 14―5 松任
小松商 12―1 星稜
▽同決勝
小松商 9（6―1、3―3）4 金沢商
（本誌注・小松市女は不参加）

筑波振球会が快勝

▼第14回茨城県一般クラブ選手権（5月・笠間市民体育館）
▽男子1回戦（2試合）
麻生ク 13―8 土浦ク
筑波振球会 24―10 土浦三OB
▽同準決勝
笠間ク 18―10 麻生ク
筑波振球会 23―8 鉾田ク
▽同決勝
筑波振球会 20（11―6、9―6）12 笠間ク
▽女子決勝
桜芳ク 14（5―3、9―3）6 笠間ク
▼第19回茨城県実業団選手権（5月・笠間市民体育館）
常陽銀行 10―9 自衛隊古河
日本原子力研 22―11 自衛隊古河
日本原子力研 25―6 常陽銀行
【順位】①日本原子力研究所②常陽銀行③自衛隊古河

中部ク、倉吉クを逆転

▼鳥取県春季大会（4月・倉吉工高）
▽一般男子1回戦（1試合）
中部ク 37―17 樫の木ク
▽同準決勝
境港市ク 26―13 中部ク
関金ク 25―17 倉吉ク
▽同決勝
境港市ク 40（19―5、21―6）11 関金ク
▽女子決勝
中部ク 17（6―9、11―6）15 倉吉ク
▽高校男子決勝リーグ
境港工 34―6 米子西
境 17―16 倉吉工
米子東 17―10 倉吉東
境港工 17―10 倉吉工
境 31―13 米子西
米子東 18―9 米子西
倉吉東 14―13 倉吉工
境港工 36―6 倉吉東
米子東 10―8 倉吉工
倉吉東 27―10 米子西
境 17―15 倉吉東
倉吉工 18―7 米子西
境 21―16 米子東
米子東 13―12 境港工
境港工 24―12 境
【順位】①境港工4勝1敗（得失点差76）②境4勝1敗（14）③米子東4勝1敗（6）④倉吉東⑤倉吉工⑥米子西
▽女子決勝リーグ
米子南 21―6 米子東
倉吉西 6―4 倉吉産業
米子南 26―7 倉吉産業
倉吉西 10―5 米子東
倉吉産業 18―9 米子東
米子南 14―6 倉吉西
【順位】①米子南②倉吉西③倉吉産業④米子東

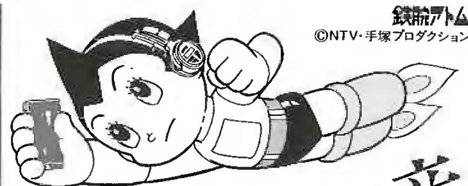
総社、アベック優勝は成らず

▼第36回岡山県高校春季優勝大会（4月・倉敷商）
▽男子準々決勝
総社 19―11 玉野
落合 12―9 児島
倉敷商 10（分）10 天城
PTC1―0で倉敷商の勝ち
倉敷工 15―11 西大寺
▽同準決勝
総社 18―12 落合
倉敷商 17―9 倉敷工
▽同決勝
倉敷商 12（5―5、7―6）11 総社
▽女子準々決勝
天城 14―1 操山
総社 17―2 古城池
落合 19―4 青陵
児島 8―6 真備
▽同準決勝
総社 10（分）10 天城
PTC2―1で総社の勝ち
落合 20―12 児島
▽同決勝
総社 15（10―5、5―7）12 落合

昭和学院、順当勝ち

▼千葉県高校選手権（5月・生沼高）
▽男子準々決勝
船橋旭 13―12 東葛飾
市川 12―8 千葉南
佐原 20―11 木更津
県立柏 18―14 八千代
▽同準決勝
船橋旭 17―7 市川
県立柏 20―18 佐原
▽同3位決定戦
市川 13―7 佐原
▽同決勝
船橋旭 13（7―6、6―4）10 県立柏
▽女子準々決勝
昭和学院 17―8 佐原女
明徳 13―10 流山中央
東邦 19―5 佐原
和洋女大付 17―4 市立柏
▽同準決勝
昭和学院 23―2 明徳
東邦 21―4 和洋女大付
▽同3位決定戦
和洋女大付 10―8 明徳
▽同決勝
昭和学院 18（7―4、11―6）10 東邦
▼石川県春季大会（5月10、17日・金沢美術工芸大）
▽一般男子準々決勝
金沢あすなろ 14―0 レインボー
小松ク 19―17 金沢工大
寺井ク 20―10 石川送球会
金沢市役所 24―20 金沢大
▽同準決勝
金沢あすなろ 27―15 小松ク
金沢市役所 30―10 寺井ク
▽同決勝
金沢市役所 26（13―3、13―10）13 金沢あすなろ
▼第8回青森県社会人春季選手権（4月25、26日・七戸町立体育館）
▽男子準々決勝
青森ク 21―10 青商ク
尾上ク 12―0 海自二空郡B
大湊航空隊 21―20 海自二空郡A
七戸ユニオン 31―24 青森教育ク
▽同準決勝
青森ク 30―11 尾上ク
七戸ユニオン 25―9 大湊航空隊
▽同決勝
青森ク 26（14―13、12―9）22 七戸ユニオン
▽女子決勝
あすなろク 9（3―2、6―5）7 青森ク

【編集後記】 前号で8月中頃までに7月号をお届けすると約束しておきながら、またまたの遅延誠に申し訳ありません。今年は、ハンドボール界も5月から8月にかけて、ジャパンカップ、実業団選手権、日本リーグ、インターハイ、中学生大会と大きな大会が引きつづき、各地でそれぞれの予選会などが行われて熱戦を展開してきました。機関誌では、少しでもそうした活発な活動状況を誌面に反映したいと考えています。各種の大会の結果を、終了後直に日本ハンドボール協会機関誌担当宛お送り下さい。（K）



飛びだせ、いい音。カプセル・サウンド。



軽快なフットワークが決め手だ。
青春のナイスシュート!





STEREO CAPSULE

ステレオカプセル300

TRQ-300
¥39,800

ヘッドホンで、カセットテープのステレオサウンドが楽しめる《ステレオカプセル300》。ステレオ録音OK、メタルテープも聴けて、ダビング用のデッキとしても使える実力派。さあ、「いい音」つれて街へ飛びだそう!

●レビュー/キュー機構 ●メカニカルポーズつき ●フルオートストップ機構 ●ワンタッチ録音方式 ●LEDによる録音/オペレーション(バッテリーチェック兼用)インジケーターつき ●自動録音(ALC)機構内蔵 ●Rチャンネル、Lチャンネル独立ボリュームつき ●3.5㎜直径ステレオ録音用外部マイク端子つき

●IC×2、トランジスター×6、ダイオード×4、LED×1●実用最大出力50mW(25mW+25mW)EIAJ/DC●2電源/DC:3V(単3×2)、AC:100V 50/60Hz(別売りACアダプターA-200使用)●大きさ幅174.5×高さ88.0×奥行25.0(㎜)●重さ400g(乾電池含む)
★小形・軽量ヘッドホン、専用キャリングケース付属

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立家電品取扱店へお気軽にどうぞ。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九八号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和五六年六月二十五日印刷 昭和五六年七月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話(467)七〇九七
振替 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)